

CSR 報告書 2016



100年にわたり、化学のチカラで ゆたかな社会づくりに貢献

トクヤマは、1918年の創業以来、いくつもの試練を乗り越えながら事業を展開してきました。

ソーダ灰の国産化をはじめとして、セメントやさまざまな化学製品を製品群に加え、

今では、電子・情報分野、生活・医療分野、環境・エネルギー分野にまでフィールドを拡げ、

人々の暮らしに役立つさまざまな製品やサービスに、私たちの技術と経験が生かされています。

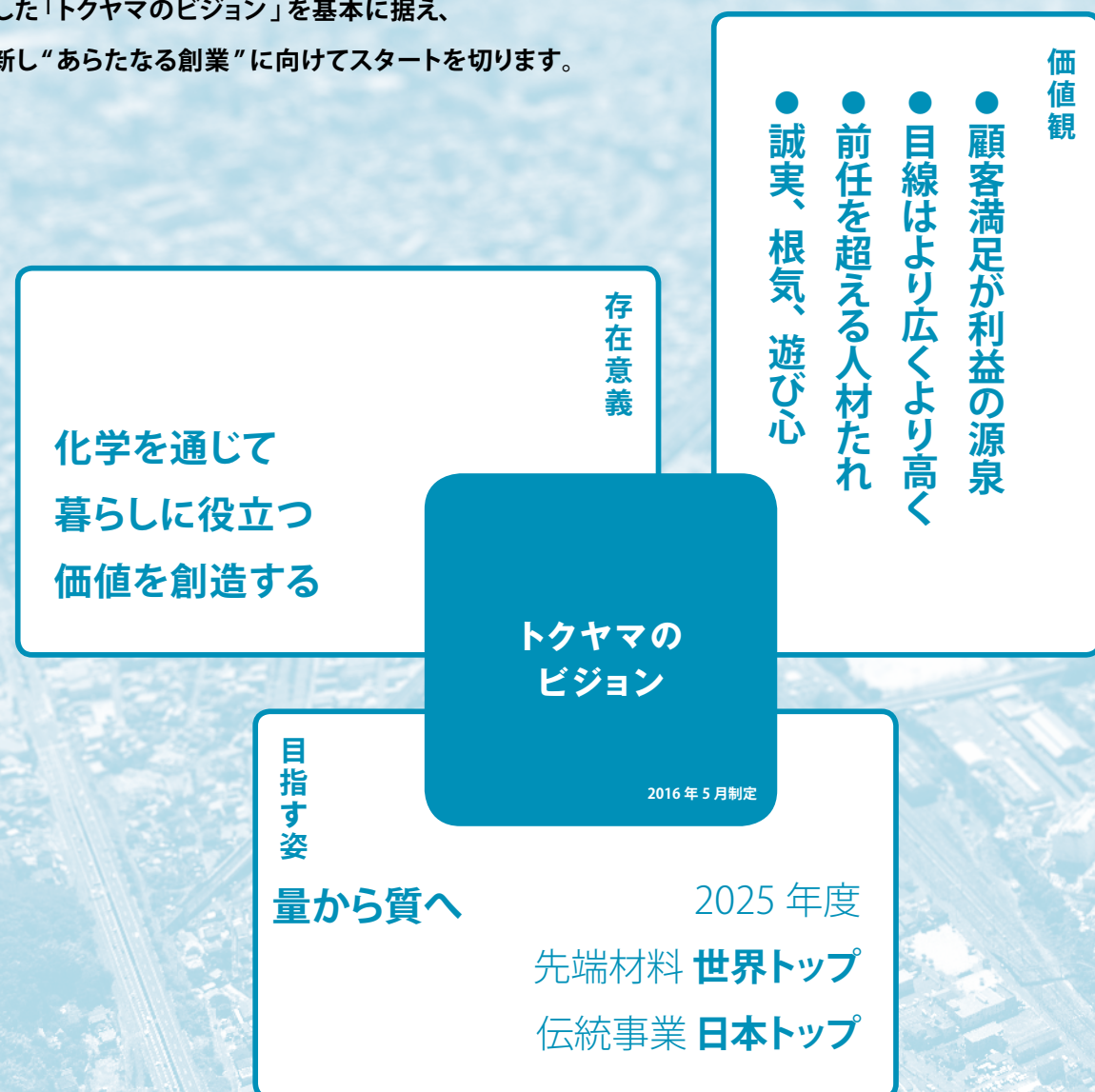
私たちトクヤマグループは、次の100年も暮らしに役立つ新しい価値を創造し、

ゆたかな社会づくりに貢献してまいります。

そして、社会になくてはならない企業として持続的成長を遂げていくために、

新たに制定した「トクヤマのビジョン」を基本に据え、

気持ちを一新し“あらたなる創業”に向けてスタートを切ります。



会社概要

社名：株式会社トクヤマ

所在地：【東京本部】
〒101-8618
東京都千代田区外神田1-7-5 フロントプレイス秋葉原
TEL. 03-5207-2500 FAX. 03-5207-2580

【徳山製造所（本店所在地）】
〒745-8648
山口県周南市御影町1-1
TEL. 0834-34-2000 FAX. 0834-33-3790

【その他の国内拠点】
鹿島工場・つくば研究所
大阪オフィス・高松支店・広島支店・福岡支店
仙台営業所・名古屋営業所・周南営業所

代表者：横田 浩（ヨコタ ヒロシ）

創立日：1918年2月16日

資本金：10,000百万円（2016年6月末現在）

従業員数：5,759名（連結うち海外従業員数1,390名）1,888名（単体）

グループ会社数：85社（従業員数とグループ会社数は、2016年3月末現在）

主な事業内容：化成製品／ソーダ・クロルアルカリ・塩ビ・NOC（ニューオーガニックケミカルズ）
特殊品／多結晶シリコン・乾式シリカ・
電子工業用高純度薬品・窒化アルミニウム
セメント／セメント・資源環境
ライフアメニティー／ファインケミカル・NF（微多孔質フィルム）・合成樹脂・
イオン交換樹脂膜・歯科材料などの製造販売

証券コード：4043 東証一部

CONTENTS

- 3 トップメッセージ
- 5 特有技術で社会に貢献
- 7 バイオマス燃料や水素を活用したエネルギー
貯蔵技術で環境負荷を低減
- 9 産業用洗浄剤分野で顧客対応力を高め
お客さまの生産性と品質を支える
- 11 グループの総合力を生かし
医療・ヘルスケア領域で貢献する
- 13 トクヤマグループのCSR
- 15 レスポンシブル・ケア
- 19 社会とともに歩むトクヤマ
保安防災・労働安全衛生
- 21 従業員とともに・社会貢献活動
- 23 トクヤマの環境経営
- 29 社会貢献活動
- 30 サイトレポート
- 34 データ集
- 37 第三者意見
- 38 業績ハイライト・グローバル拠点

編集方針

●「CSR報告書2016」は、本冊子とデータ版からなり、トクヤマグループのCSRへの取り組みと事業活動の全体像をステークホルダーの皆さまへわかりやすくご報告するよう編集しています。紙面の都合上、冊子に掲載できなかった記事をデータ版、およびホームページで開示していますので、あわせてご覧ください。

<http://www.tokuyama.co.jp/csr/>

●本報告書につき(株)環境管理会計研究所の梨岡英理子氏に第三者意見を依頼しました。

●本報告書作成にあたっては「環境報告ガイドライン（2007年版）」（環境省）を参考にしました。

【報告書の対象範囲】 対象期間：実績データは2015年度（2015年4月～2016年3月）。活動内容は一部2016年度も含む。
対象企業：株式会社トクヤマ単体（環境パフォーマンスデータは徳山製造所+鹿島工場）。一部パフォーマンスデータについては主要生産グループ会社11社の合計値を併記。
対象地域：日本国内における活動。一部海外グループ会社を含む。
発行日：2016年7月29日（次回発行予定：2017年7月）

表紙について

表紙から裏表紙にかけてカラーグラデーションによって1日24時間を表現。トクヤマの製品が利用されている日常的な風景とあわせて、現在から未来にわたっていつでも、世界中でトクヤマが社会と人に役立つ価値を創造していく姿を表したものです。裏表紙には、本社機能を移転した徳山製造所や近隣の風景を描き込みました。



2015 年度を振り返って

全社をあげて収益力強化に取り組んだ結果、既存事業が好調に推移し、売上高および営業利益はともに前期比で増加しました。しかしながら、前期に続くマレーシア事業での減損による巨額の純損失の計上となり、ステークホルダーの皆さまにはご心配をおかけしていることをお詫び申し上げます。

新しく中期経営計画を策定するにあたり、さまざまな角度から議論する中で、徳山製造所のインフラの強みへの甘えと、それ故の内向き志向に陥っていたのではないかと反省しているところです。本来のものづくりの競争力を取り戻すために私たちは、意識改革が最も大切だと認識し、新たに「存在意義」「目指す姿」「価値観」からなる、「あらたなる創業」に向けたトクヤマのビジョンを制定しました。

「あらたなる創業」に込めた決意

今回の減損によってトクヤマは新しく生まれ変わらなければならないし、今が生まれ変わるチャンスです。創業の原点に立ち戻って新しい会社を全員でつくっていくんだという決意を込めてこれからの取り組みを、「あらたなる創業」としました。

当社は技術オリエンテッドな会社ではありますが、自分たちの技術の本当の強みを十分に理解しているかと問われれば、そうではありません。私は、多くの競合の中で、お客さまが当社の技術のどこを評価し、製品を選んでいるかの理解がまだまだ足りないと感じています。それを理解して強みをさらに磨けば圧倒的な差別化もできるでしょうし、お客さまのメリットももっと大きくなるのではないのでしょうか。それには、技術スタッフこそがお客さまとの対話が必要であり、全社で自分たちの強みを理解し、社員一人ひとりが自分の仕事の価値は何かを考えて行動することが非常に重要です。

重点3領域で成長のストーリーを描く

2016 年 5 月に本社機能の一部を山口県周南市の徳山製造所に移し、あわせて開発部門をはじめとして組織のスリム化を進めています。メーカーの仕事はお客さまが求めている価値を生み出すことです。お客さまに買っていただいている製品の周辺には、お客さまにとってたくさんのテーマがあります。それを一つひとつ掘り起こしていく。そこから新たな発見、新たな技術・製品が生まれてくるのではないのでしょうか。

既存のビジネス・技術の強みを生かして周辺にある「ICT*」

* ICT：Information and Communication Technology（情報通信技術）の略。
当社はICT領域のお客さまに原材料を提供しています。

化学を通じて
暮らしに役立つ
価値を創造する

代表取締役 社長執行役員

横田 浩

「ヘルスケア」の領域に重点的に取り組むことによって成長につなげていきたい。たとえば、「ICT」ではウエハの原料となる多結晶シリコンから、プロセスケミストリーの現像液、IPA、そして最終デバイスに使用される放熱材までもっているわけですから、ICT の各工程に当社の主要材料がかかわれるよう開発を進めていきます。「ヘルスケア」「環境」についても、点在する製品を線に、さらには面にできるよう、グループ全体の資源をつなげて成長のストーリーを描いていきます。

コーポレートガバナンス体制の強化について

昨年は議論の質を高めていきたいとお話しました。事業運営に携わる全員がリスクを常に意識して、より正しい答えにたどり着けるよう意思決定にかかわっています。事業はお客さまの望むもの、満足するものを実現していくことがすべてです。そこにしか当社の存在意義はありません。会社の存在意義を徹底的に追求することがガバナンスの強化そのものだと考えています。徹底した議論を通じ、適切な情報に基づき、市場・技術・財務などのリスクを認識・共有した上で、極力合理的な意思決定をするよう、これからも努めてまいります。



CSR、RC（レスポンシブル・ケア）の推進について

CSR、RC についても同じです。お客さま満足を徹底して追求していく、「トクヤマのビジョン」に基づいて全員が行動すれば、あらゆる行為が CSR と RC につながる。CSR 経営、RC の推進とお客さま起点はイコールです。

当社はおよそ 100 年前にソーダ灰の国産化を目的に創業しました。その事業目的は日本の産業に貢献するという社会貢献そのものだったわけです。またセメントは、ソーダ灰製造で排出される大量の廃棄物を資源として利用するという発想から生まれた事業です。創業当時の資源を無駄にせず、有価物に変えるという精神を受け継ぎ、今後も事業を推進していきます。その事業活動においては、安全なくして事業は成り立たないと肝に命じ、安全の確保を最重要課題として引き続き取り組んでいきます。

第一線での女性活躍へ向け意識改革を

今年 4 月から女性活躍推進法が施行されました。当社の女性管理職は全員がスタッフ部門に所属していますが、今後は製造や営業などの第一線を担ってほしいと思います。

たとえば、当社の製造現場には力仕事はありませんから、プロセスを熟知して、専門力・人間力を磨けば女性であることが問題になることはありません。女性活躍を妨げている要因の一つに先入観、つまり意識の問題があるのではないのでしょうか。まず周りの意識を変えていく必要があるし、本人からも、たとえば「第一線の仕事をやりたい」と、主張してもらいたいと思います。女性の芯の強さや柔軟性、感性が会社には必要ですから、ぜひチャレンジしてもらいたいですね。

組織や人の隙間をなくし、外向きな会社

本社機能移転の狙いは、まずはビジネスの効率を上げ、質を高めることです。最大の生産拠点である徳山製造所に本社機能があれば、意思疎通を含めて現場の実態を把握し、仕事の効率を上げることが可能となります。もう一つは意識の改革です。製造、開発、企画、営業の各機能が一体となり、常に顧客満足実現を目指して、現状を変え続けることが意識改革につながります。トクヤマのビジョンの実現により、トクヤマは変わったと言われるようになります。組織と組織、あるいは人と人の隙間をなくしてお客さまのところに飛び出していきます。グループ一体となって外向きの会社になりたいと思っています。

化学のチカラでお客さまの課題を解決し 安全で快適な社会をつくります

トクヤマは設立当初よりお客さまのお役に立ち、社会の発展につながる製品をつくり続けています。たとえば、「ICT」領域ではウエハの原料となる多結晶シリコンから、プロセスケミストリーの現像液、IPA、そして最終デバイスに使用される放熱材に至るまで、お客さまのビジネスにイノベーションを起こす素材を提供しています。また、種々のリサイクル技術や液化水素の供給など、独自の技術や製品で環境負荷の低減に努めて、人と社会に貢献しています。

創業以来受け継がれる「お客さま起点」の姿勢

トクヤマは1918（大正7）年に、第一次世界大戦の影響によるソーダ灰や苛性ソーダの輸入停止を受け、ソーダ製品の国産化を実現するために創設されました。ソーダ灰は工業基礎製品として日本の産業発展に不可欠なもので、トクヤマはお客さまの事業に役立ち、社会の発展に貢献するという使命を担うべく設立されたのです。

当社の代表的な製品である苛性ソーダは、食塩水を電気分解して製造され、各種産業で日常生活に欠かせない製品の原材料として役立っています。その製造工程で併産される塩素と副生する水素は、塩化ビニル、多結晶シリコン、ウレタンの原料、塩素系溶剤など多種多様な誘導品へと姿を変え日本の産業の基礎を支えています。また、水素については、液化水素へと生まれ変わり、近年注目を浴びている水素社会の実現に向けて役立っています。

このように、創業以来100年近くにわたり、技術の深化に努めてきた結果、当社の事業分野は化成品、セメントといった基礎素材から、電子材料、機能性材料などのスペシャリティ製品にまで広がり、世界でトップシェアを占める製品も生み出しています。

事業を通じて環境負荷の低減にも貢献

化学メーカーが果たすべき責務に安全の確保と環境負荷の低減があります。トクヤマは設立当初から廃棄物の再資源化に積極的に取り組んでいます。山口県周南市にある徳山製造所は、無機化学品を製造する徳山工場、有機化学品や多結晶シリコンを製造する東工場、セメントを製造する南陽工場からなりますが、出力55万kwの自家発電設備を中心に、各工場がエネルギー、マテリアルおよび技術で強固に結びつき、インテグレートされた循環型製造所を形成し、排出（エミッション）

をゼロにするという「ゼロ・エミッション」を実現しています。

セメント製造では、社内から発生する廃棄物や副生物を回収して資源化するだけでなく、社外からも多くの廃棄物を受け入れてセメントの原燃料として活用することで、安全な廃棄物処理を行っています。また工業用洗浄液や現像液のマテリアルリサイクル技術を確立するなど、環境負荷の低減に貢献する技術開発にも積極的に取り組んでいます。

有機・無機の当社特有技術を生かし、 お客さまと社会の課題解決を図る

幅広い産業の原材料の製造は、多くのお客さまとの出会いを生み、その出会いが新たな技術のシーズとなって、数多くの有機・無機の当社特有技術を生み出してきました。今後は「ICT」「ヘルスケア」「環境」を重点領域として、これらの当社特有技術とお客さま起点のものづくりへのこだわりという強みを発揮して、いつの時代にも社会に必要とされ、お客さまに選ばれるトクヤマグループであり続けるよう努め、社会に貢献していきます。



バイオマス燃料や水素を活用した エネルギー貯蔵技術で環境負荷を低減

徳山製造所のセメント工場では、産業廃棄物を原料として利用するだけでなく、独自技術によって燃料としても有効に活用し、CO₂の削減を実現しています。また、太陽光発電の余剰電力を水素に変換して貯蔵するなど、再生可能エネルギーが抱える課題の解決へ向けた取り組みも行っています。

資源リサイクル事業

下水道汚泥をセメント工場のバイオマス燃料として活用

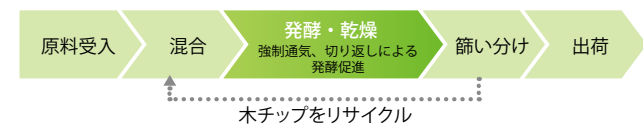
下水道汚泥の発酵熱を利用して乾燥し バイオマス燃料化

トクヤマは、香川県で産業廃棄物処理事業などを営む南部開発株式会社と共同で株式会社森づくりを2012年10月に設立し、下水道汚泥を発酵・乾燥して、石炭代替エネルギーとなるバイオマス燃料として活用しています。トクヤマは業界に先駆けて下水道汚泥をセメント原料として活用してきました。下水道汚泥の処理方法の中で、セメント資源化は安定性に優れ、二次廃棄物が発生しないというメリットがあります。また、下水道汚泥はカーボンニュートラルなバイオマス燃料として注目されていますが、約80%に達する多量な水分をとばすために、多くの化石燃料が使われているのが実情です。

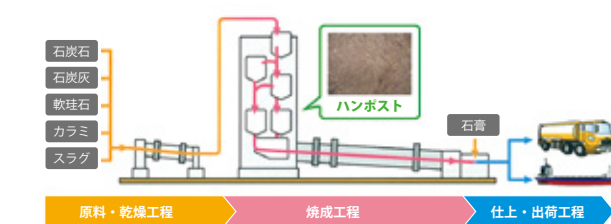
そこで、トクヤマと南部開発は微生物の働きに注目し、化石燃料を使わず、下水道汚泥が発酵の際に発する発酵熱により

効率的に下水道汚泥を乾燥させた、バイオマス燃料「ハンポスト®」を製造する独自の技術を共同開発しました。下水道汚泥からハンポスト®を製造する作業手順は以下のとおりです。

ハンポスト®の製造フロー



セメント工場でハンポスト®を熱エネルギーとしてリサイクル



P.27の「セメント南陽工場におけるリサイクルシステム」の図とあわせてご覧ください。

Voice))

全国展開で地域社会へも貢献する



20年ほど前から南部開発さまとは下水道汚泥のセメント原料化をジョイント・ベンチャーで行っていましたが、2010年に建設不況などの影響から、セメント工場で3基稼働していたキルンが2基体制となり、汚泥処理能力が大幅に減少してしまいました。つまりそれまで受け入れていた下水道汚泥が処理できなくなってしまうわけです。それで、原料として処理できないのなら、燃料として利用できないかと、試行錯誤を繰り返して、発酵菌を用いて汚泥の水分をとばしてハンポスト®というバイオマス燃料を製造する技術を生み

株式会社森づくり 代表取締役社長 久次 修二

出しました。発酵・乾燥に要する期間を短くすることで処理能力が拡大できますので、現在は、さらに効率よく発酵できる発酵菌がないか研究を続けています。

当社のお客さまは自治体ですが、セメント製造工程で処理する当社の方法は安心とご評価いただき、京丹後市や札幌市など見学も増えています。将来的には全国に展開して処理量を増やしつつ、輸送時のCO₂排出を抑え、また地元に雇用を生むなど地域社会に貢献するとともに、火力発電所やバイオマス発電所への供給も目指していきたいと考えています。

CO₂排出量の大幅削減を実現

こうして製造されるハンポスト®は、セメント製造工程で石炭に代わる熱エネルギーとして利用され、石炭使用量とCO₂排出量の削減に寄与しています。

森づくりが製造するハンポスト®は化石燃料を一切使用していないだけでなく、発熱量は約2,300kcal/kg-wetと、石炭の3分の1程度あり、セメント製造時の石炭使用量を抑え、CO₂排出量の削減につながっています。熱カロリーを使い終わった後はセメント原料として利用されるため、全量リサイクルを実現することができます。また、汚泥のかさは3分の1程度になり、輸送に要するCO₂の排出量が低減するほか、発酵熱

により大腸菌等の雑菌が死滅するため衛生的で、気になる臭いもほとんどしないというメリットがあります。

株式会社森づくりの概要

設立	2012年10月30日
所在地	香川県さぬき市前山279番地
資本金	1,000万円
代表者	久次 修二（代表取締役社長）
処理能力	80t／日（24時間）
事業内容	汚泥等の発酵・乾燥によるバイオマス燃料の製造

* 有機物を微生物によって完全に分解された肥料のことをコンポスト（堆肥）という。製造期間がコンポストの半分程度であることから「ハン（半）ポスト」と命名された。

CO₂フリーへ実証実験

太陽光発電の余剰電力を水素に変換して貯蔵

よく水素に変換するシステムの開発を目指しています。

太陽光発電によるエネルギーを水素に変換して蓄えることで、太陽光発電の不安定さを解決し、石油・石炭に代わるCO₂フリーのエネルギー源を持つことが可能となり、環境面だけでなく、エネルギーセキュリティ面でも寄与するものと関心を集めています。



独自のコア技術を生かして 石油・石炭に代わるエネルギー源をつくる

トクヤマは低炭素・循環型社会の実現を目指して、徳山製造所内に「アルカリ水溶液の電気分解による水素製造設備」を設置し、2016年3月より太陽光発電の余剰電力を水素に変換して貯蔵するための実証実験を開始しています。山口県の「やまぐち産業戦略研究開発等補助金」に採択されたこのプロジェクトは、今後増加が見込まれている余剰電力から水素を製造し、必要に応じて再び電力に変換しようというものです。

この実証実験にはトクヤマ独自の電極・膜技術が生かされています。徳山製造所では、イオン交換膜法による食塩水の電気分解により苛性ソーダ、塩素、ならびに水素が製造されていますが、この製造工程で磨かれた技術を応用して、効率

産業用洗浄剤分野で顧客対応力を高め お客さまの生産性と品質を支える

トクヤマはICケミカル事業として、世界トップシェアを誇る電子工業用超高純度薬液を有するほか、産業用洗浄剤事業としてトクヤマMETELを設立し、お客さまへの環境対策技術の提供などに積極的に取り組み、新製品の開発やイノベーション創出に貢献しています。

産業用洗浄剤事業

塩素系洗浄剤に、フッ素系、準水系の洗浄剤を加えて顧客ニーズに対応

電子部品、精密部品等の洗浄剤の ラインナップを充実

産業用洗浄剤は自動車・電機・電子・精密機械・セラミックス・樹脂など幅広い分野で使用されています。また、洗浄は前工程から中間・最終仕上げなど、さまざまな工程で行われ、素材、部品、治具等の清浄度は、次工程での処理や製品の機能にも影響してきます。

産業用洗浄剤には塩素系、水系、準水系、フッ素系、炭化水素系など、さまざまな種類があり、環境規制を守りつつ、洗浄性能やコストなどの条件に応じて選択されています。環境規制の動きをみると、1996年の特定フロン・トリクロロエタン等の使用中止、2000年の化学物質管理促進法（PRTR法）の施行、2006年の揮発性有機化合物（VOC）排出規制の実施、さらに今後は代替フロンHCFCの原則全廃が予定されるなど、大気汚染と地球温暖化の防止に向けて規制が強化されてきています。

トクヤマはこれまで40年にわたり、強力な洗浄性能と速乾性を有する塩素系溶剤「メタクレン™」に強みを有し、その経済性も相まって多くのお客さまから支持されてきましたが、法規制に伴う製品代替も見据え、2015年7月に産業用洗浄事業専門の株式会社トクヤマ METELを設立し、10月にフッ素系、水系、準水系洗浄剤のラインナップを有する旭化成ケミカルズ株式会社から洗浄剤事業を譲り受けました。これにより、ネジやボルトなどの金属部品から電機、自動車などの部品やプリント基板などの精密部品まで幅広い洗浄用途に対応する製品ラインナップが揃い、お客さまの多様なニーズに応える体制が整いました。

お客さまのパートナーとしてソリューションを提供

産業用洗浄剤は製造業にとってなくてはならないもので、生産性と品質を左右するものですが、洗浄工程を経て生産された製品に洗浄剤は残りません。このためかお客さまの洗浄剤

への関心は必ずしも高くはなく、その特性や用途など洗浄剤を詳しく知る人が数少なくなっているようです。当社には、営業・技術ともに知見の豊富なベテランが在籍しており、お客さまのパートナーとして、洗浄剤だけでなく洗浄技術や設備などの提案なども行い、お客さまの要求にきめ細かく対応できることが強みとなっています。

お客さまの立場から安全性と環境負荷低減を提案

洗浄にかかわる、より多様なお客さまのニーズに応えるため、川崎市にあるトクヤマ METEL本社には研究開発拠点として洗浄技術センターを設置しています。営業と技術部門の連携を深めることによって、洗浄技術サービスやEH&S活動*などお客さま起点からの活動をさらに推進していくことを目的にしたものです。

当社の洗浄剤をご検討いただく際には、洗浄条件の確認、対象となる汚れや洗浄ワークの確認、これら条件に基づく当社での洗浄試験や品質評価試験などさまざまな検討を重ねることで最適な条件を設計してまいります。当社の洗浄技術センターには洗浄装置や試験設備を備えていますので、打ち合わせやお客さまの立会い試験等にもご利用いただいています。

EH&S活動は2008年から実施している取り組みです。洗

浄剤はお客さまの健康や環境にかかわるものですから、お客さまに洗浄剤の効率的な回収・再利用法などを提案する活動を通じて、安全を守りつつ生産性が高まるソリューションを提供しています。たとえば、PRTR法によってお客さまには塩素系溶剤の排出量の届け出が義務づけられていますので、効率的な洗浄剤の回収方法を提案して洗浄剤の適切な使用量を推奨しています。こうすることで、未永く当社品を使い続けていただく環境を整えることを目指しています。

その一方で、安全で環境にやさしい洗浄システムをお客さまと一緒に追求し、今後さらに高まると予想される安全性と環境負荷低減へのニーズに対応した新製品の開発を進めることで、世界中のお客さまに選ばれ続ける会社となっていくことを目指しています。

*EH&S活動(Environment Health & Safetyの略)は、産業用洗浄剤の環境と健康、安全にかかわる情報提供、技術開発、啓発活動を通じて、地球環境保護、作業環境保全の推進を図り、安心して洗浄剤を使用できる環境の整備を目的とした活動。

メーテル 株式会社トクヤマ METELの概要	
設立	2015年7月1日
所在地	川崎市川崎区南渡田町1番1号 京浜ビル8F
資本金	1,000万円
代表者	甲斐 博泰（代表取締役社長）
事業内容	産業用洗浄剤の製造、販売等

Voice >>>

株式会社トクヤマ METEL 代表取締役社長 甲斐 博泰

産業用洗浄分野でお客さまの製品を支える

トクヤマのICケミカル事業では、半導体デバイスや電子部品の乾燥・精密洗浄剤や、半導体回路形成でのフォトリソグラフィ用現像液など、世界トップシェアを誇る電子工業用超高純度薬液を有しています。

一方、産業用洗浄剤事業では株式会社トクヤマ METELを設立し、洗浄性とコストパフォーマンスに優れ、より環境負荷の小さな製品の開発を進めています。

トクヤマ METELは、産業用洗浄分野において豊富なラインナップと技術サービスにより、お客さまへの環境対策技術の提供などに積極的に取り組み、お客さまの製品の生産性と品質を支えるとともに、新製品開発やイノベーション創出に貢献しています。

Voice >>>

株式会社トクヤマ METEL 技術開発部長 松本 省慈

目に見えないところで製造現場を支える

私がこの仕事に携わったばかりの頃は、フロンやエタンが全盛で、それらの溶剤を使えば簡単に誰でも洗浄ができる状態でした。しかし、今は洗浄の目的や部材の材質、要求精度に対して細分化された洗浄剤の中から最適な洗浄剤を選択するのが非常に難しくなっています。一方で、ユーザーにおける洗浄担当者が減少傾向にあり、当社への期待はますます

大きくなってきています。

当社は洗浄剤のプロとして、洗浄設備やシステムなどのハード面からランニングコスト削減や液管理方法などのソフト面まで、洗浄に関するあらゆるお客さまの要求に応えています。

最終製品としては目に見えない洗浄剤ですが、これからも製造現場を支えていきたいと思っています。

グループの総合力を生かし 医療・ヘルスケア領域で貢献する

トクヤマはジェネリック医薬品の原薬のほか、歯科材料など医療・ヘルスケア領域にも注力しています。日本の高度医療を支える医療機関の臨床検査の分野でも独自の技術で存在感を高めています。

医療を支える臨床検査室

迅速的確な診断、治療を可能にする臨床検査をサポート

医療を支える臨床検査機器・システム、 試薬等をワンストップで提供

医療の高度化や病気・病態の多様化、さらには個別化医療の浸透などに伴い、医療現場における臨床検査の役割がますます大きくなってきています。トクヤマのグループ会社である株式会社エイアンドティーは医療機関の臨床検査にかかわる製品・サービスの提供を通じて、医療の質と安全性の向上、業務の効率化に貢献しています。

現在、臨床検査は急性期の緊急検査や診療前検査にまで広がり、大規模な総合病院では検査システムに登録される検体検査項目は、1,300以上に及んでいます。これに患者の集中も加わり、臨床検査技師の業務量が増加しています。エイアンドティーは、取り扱う製品群 C・A・C・L* のすべてにおいて開発から製造、販売、カスタマーサポートまでを一貫して提供することにより、検査の効率化と検査現場の業務負担の軽減に貢献しています。また、効率的で迅速な検査を実現するため

の臨床検査体制の構築から運営までのコンサルティングも行うなど、総合的なソリューションを提供しています。

*臨床検査室の運営に必要な製品分野「臨床検査試薬 (Chemicals)」「検体検査装置 (Analyzers)」「臨床検査情報システム (Computers)」「検体検査自動化システム (Lab-Logistics)」の略称。

簡易分析システムで血液凝固検査に イノベーションをもたらす

臨床検査分野での新しい課題の一つは、急性期や手術時などの緊急検査にいかに対応するかです。臨床検査室でたくさんの検体を測定するのは対照的に、緊急検査では、少数の検体ですが夜間休日を問わず 24 時間、その場で測定できなければなりません。たとえば手術では血液が固まるのを防ぐため抗凝固剤が投与されますが、その効き具合をモニターする必要があります。エイアンドティーは血液凝固検査でのこのようなニーズに応えるため 1989 年より検査試薬と装置の開発

を進め、これまでに多くの製品を上市してきました。

最新の血液凝固分析装置「CG02N」はドライ試薬を用いた簡易測定法を採用し、血液凝固の分析測定において医療現場から求められる凝固基本 5 項目が測定できる世界唯一の簡易分析システムです。この CG02N は重量 2.8kg と小型軽量なため、大規模な臨床検査室を持たないクリニックなどでも使用され、より多くの人々の血液凝固検査に役立っています。東日本大震災や熊本地震の被災現場にも提供し、多くの被災者の診察・治療に役立てられました。

さらには、ペット（犬・猫）でも肥満・糖尿病・癌・心疾患や外科手術が増加し、血液凝固検査のニーズが高まったため、国内初の動物専用血液凝固分析システムを開発し、全国の動物病院に展開しています。

予防医療へのシフトに対応し、 予防検査の分野でもソリューションを提供

超高齢化社会が間近に迫り、高血圧症や糖尿病、心臓病、脳卒中など生活習慣病をいかに防ぐかが医療の大きな課題となっています。治療から予防へと医療の変革が求められる中、エイアンドティーは医療現場のニーズと人々の健康志向にマッチしたソリューションの提供を通じて、予防医療の推進にも貢献していきます。

株式会社エイアンドティーの概要

設立	1978年5月25日
本社所在地	横浜市神奈川区金港町2番地6号 横浜プラザビル10F
資本金	5億7,761万円
代表者	三坂 成隆 (代表取締役社長)
事業内容	臨床検査機器・システム、試薬の製造、販売等
証券コード	6722 東証JASDAQ市場

Voice >>>

株式会社エイアンドティー 取締役 開発本部長 吉村 佳典

C・A・C・Lソリューションで医療サービスの向上へ貢献

厚生労働省は医療サービスの向上のため、2020 年度までに 400 床以上の大規模病院で、電子カルテシステムの導入率 90%を目指すなど、医療分野の IT 化を推進しています。当社の C・A・C・L ソリューションは臨床検査試薬・装置から検査情報システム、さらには検査自動化システムまでをワンストップで提供しており、医療の IT 化や患者負担の少ない迅速診療に大きく貢献しています。

最新システムではベテラン医師から研修医、看護師まで等しく検査情報の入手を可能とするなど、医療の質の向上に役立っているほか、検査の自動化は検査ミスをなくすなど安全性の確保と、業務効率を高めています。また近年、広がりを見せる臨床検査室の ISO15189 認定取得にもシステム面からサポートするなど、医療機関と連携を図りながら医療サービスの向上に努めています。

Voice >>>

株式会社エイアンドティー 開発ユニットリーダー 菊池 匡芳

開発に14年を費やした血液凝固分析システム

血液の凝固検査は血液の固まりやすさだけでなく、抗凝固剤の使用の可否と効き目を調べるという点で、人命に直結する非常に重要な検査と言えます。臨床検査室から離れた場所などでの検査ニーズが高く、安全で精度の高い検査を簡便に行えるシステムの開発が求められていました。その答えが「CG02N」ですが、これに用いられている凝固ドライ技術は当社の独自技術です。水

を使つての試薬の前調製が不要なことが特長の一つで、検体の水分でカードに収められた凍結乾燥試薬を溶かすわけですが、どのカードでも同じ溶解性にするのが難しく、その技術開発には苦労しました。また耐衝撃性を高めるための凍結乾燥保護剤の探索に何度も試行錯誤を繰り返しました。今後は血栓を溶かす線溶検査分野で同様の簡易検査システムの開発を目指しています。

CSRを推進し、化学を通じて暮らしに役立つ価値を創造して社会に貢献する

トクヤマは、CSR経営を実践し、これまでに培ってきた化学技術で新しい価値を創造し提供し続けることで、人々の幸せや社会の発展に貢献していきます。

トクヤマのCSR経営の基本理念

当社は、持続可能な未来を「社会」とともに築く活動を継続的にを行い、ステークホルダー（株主、顧客、従業員、取引先、地域社会）それぞれからの評価の向上を目指すことをCSR経営の基本理念としています。



ひまわりのもつ、明るく健康で、まっすぐなイメージをキャラクター化したCSR推進のシンボルマークを定めています。業務の適正化・効率化はもちろん、社会や環境に配慮した信頼される「明るく健康な」会社を目指すという意味が込められています。

トクヤマグループ5つの良心

- ① 法令や社内ルールに違反していないか
- ② トクヤマグループ行動憲章に則しているか
- ③ 顧客や取引先はどう思うか
- ④ 社会や一般消費者はどう思うか
- ⑤ 家族や同僚に胸を張って話せるか

私たちのその行為は、

トクヤマのCSRとは

当社は、CSR経営の基本理念に則り、各ステークホルダーとの良き関係性の構築に向けてCSRを推進しています。コーポレートガバナンス・コードの「会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上」という趣旨・精神がCSRにつながるものと認識し、尊重・実践するとともに、内部統制をCSRの基盤と位置づけています。また、内部統制推進に際しては、リスクマネジメントとコンプライアンスを中核かつ両輪と位置づけています。化学メーカーである当社においてレスポンシブル・ケアは、CSRの大きな領域を占めていると認識し、全社的な推進体制を整備し、保安・環境・品質の各マネジメントシステムを着実に運用するとともに、システムの継続的な改善に努めています。

社会から信頼され顧客に選ばれ続けるトクヤマグループとして持続的な成長を実現するため、役職員一人ひとりに向けて当社グループの「行動憲章」「5つの良心」を制定し、事業所でのパネル掲示や手帳版冊子の配布などにより周知徹底を図っています。また、当社グループ各社の「行動指針」を制定し、それぞれのステークホルダーとの関係を規定しています。

コーポレートガバナンス

新しい価値を創造し、提供し続けることは、各ステークホルダーの方々との信頼と協働によってこそ可能であり、それが持続的な成長と中長期的な企業価値の向上につながると考えています。その実現のためには、コーポレートガバナンスは経営の重要な課題であると認識しており、常にコーポレートガバナンスの充実を図ってゆくということが基本的な考え方です。

コーポレートガバナンス・コードを踏まえて、株主の皆さまの権利・平等性の確保、取締役会の監督機能の強化と独立性の確保、意思決定の迅速化と業務執行の責任の明確化、および適切な情報開示と透明性の確保、株主の皆さまとの建設的な対話などに努めていきます。

コーポレートガバナンス体制

取締役会

取締役会は、業務執行に関する重要事項の審議、決議を行うとともに、業務執行を監督しています。取締役会の監督機能を強化するため社外取締役を4名選任しています。監督機能と執行機能を分離するために、2011年4月より執行役員制度を導入しています。

監査役会

監査役会は、重要事項について報告、協議、決議が行われており、監査役は、取締役会その他社内的重要な会議に出席し、取締役の職務執行を監査しています。

人材委員会

人材委員会は、代表取締役および社外取締役により構成され、取締役会に先立ち、取締役・執行役員の報酬や候補者選定などを協議しています。

経営会議、戦略会議

経営会議は、執行役員の中から代表取締役社長執行役員（以下、社長という）が指名した者によって構成される業務執行に関する決議機関で、原則として毎月2回開催されます。取締役会が決定した決裁規則に基づき、重要な戦略等について協議し、意思決定を行います。戦略会議は、重要案件につ

社会から信頼され外向きに開かれた会社へと生まれ変わります



常務執行役員
（CSR推進室担当取締役）
浜田 昭博

当社は、今般「あらたなる創業」に向けた「トクヤマのビジョン」のもと、「化学を通じて暮らしに役立つ価値を創造する」ことを存在意義と定め、顧客満足が利益の源泉であるとの価値観を持って、事業を行っていくこととしました。この存在意義ならびに価値観は、まさにCSR活動そのものにほかなりません。

これまでにCSRの基盤として内部統制の面で整備した「コンプライアンス」、「リスクマネジメント」について今後は着実な運用に努め、「コーポレートガバナンス」もさらに強化してまいります。

また、安全は事業活動のすべてに優先すると位置づ

け、保安力の向上に努めるとともに、化学をベースにする企業として長年取り組んできた「レスポンシブル・ケア活動」の経験を生かし、エネルギー消費原単位のさらなる削減やセメント工場を利用した資源リサイクル事業をはじめとする諸施策を通じて、環境経営を推進してまいります。

社員一人ひとりが主体性を持ち、スピード感を持って業務に取り組む活気ある組織風土への改革を強力に進め、今後とも社会から信頼され「化学を通じて暮らしに役立つ価値を創造する」トクヤマグループとして、外向きに開かれた元気のある会社へと生まれ変わります。

いて実行の是非、実行態様などを協議し、社長の業務執行の方針に関する方向づけを行っています。

CSR推進会議

CSRの方針と目標を決定し、その目標を達成する活動を円滑に進めるために、社長を議長とし、国内在勤の全執行役員を委員とするCSR推進会議を設置しています。適切なコーポレートガバナンスと内部統制をCSRの基盤と位置づけ、内部統制の重要事項についても議論しています。

リスク・コンプライアンス委員会

CSR推進会議の中にCSR推進室担当取締役を委員長とするリスク・コンプライアンス委員会を設置しています。本委員会を中心に、内部統制の中核かつ両輪と位置づけているリスクマネジメントとコンプライアンスの推進を図っています。

7つの専門委員会

リスクマネジメントとコンプライアンスの観点で特に専門性および重要性の高い分野について、リスク・コンプライアンス委員会から分離させた専門委員会（決算委員会、独占禁止法・競争法遵守委員会、貿易管理委員会、情報セキュリティ委員会、環境対策委員会、保安対策委員会、製品安全・品質委員会）をCSR推進会議のもとに設置し、活動を展開しています。

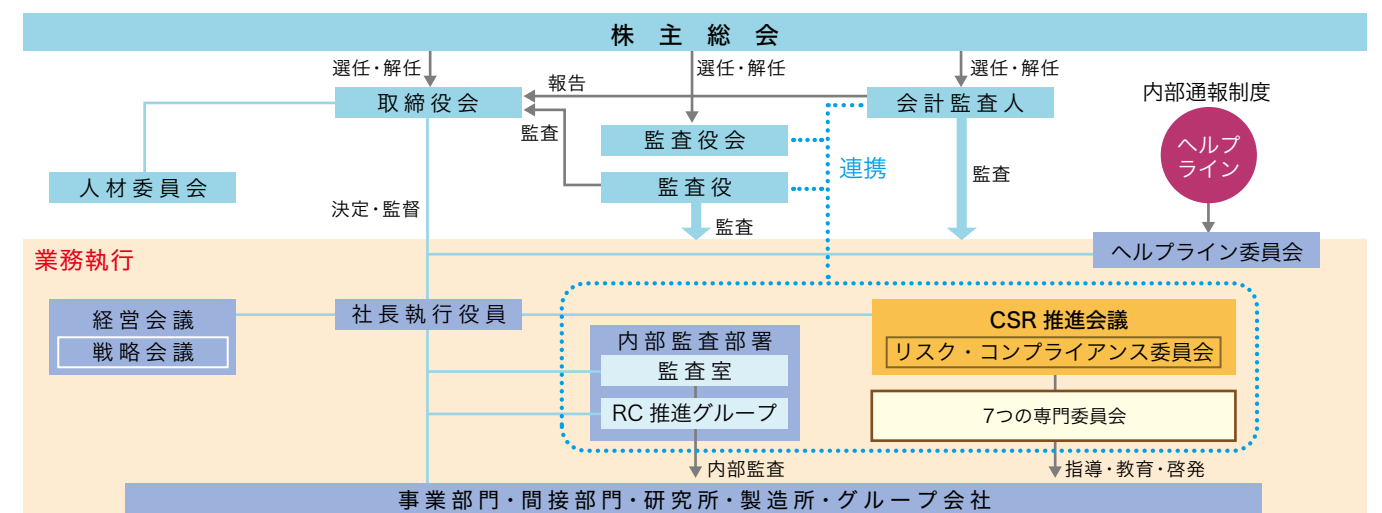
ヘルプライン委員会

ヘルプライン委員会は、当社グループにおける法令遵守上疑義のある行為などについての内部通報制度として設置しているヘルプラインに関する役割を担っています。

内部監査部署

当社は、内部監査部署として監査室およびRC推進グループを設置し、当社の各部署と各グループ会社に対して内部監査を実施しています。

コーポレートガバナンス体制図



人と社会の [環境・安全・健康] を守る



トクヤマのCSRは、レスポンシブル・ケア活動を重要な軸として推進しています。
全社的な推進体制を整備し、各マネジメントシステムを着実に運用。
環境・保安・品質システムの継続的な改善に努めています。



レスポンシブル・ケアとは

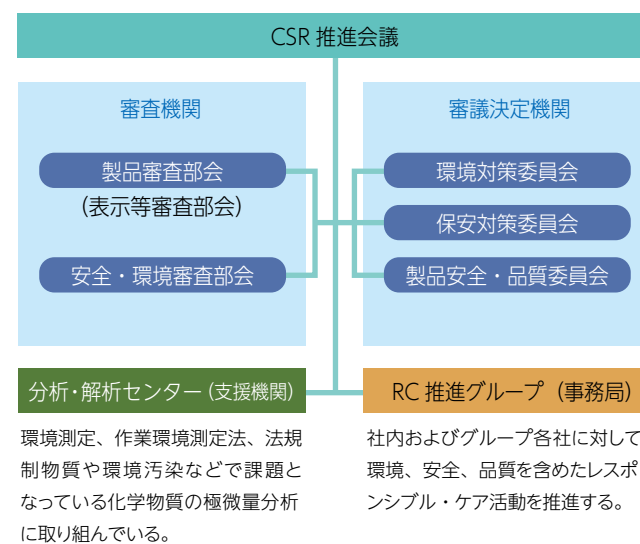
レスポンシブル・ケアとは、化学物質を製造または取り扱う企業が、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至るまでのすべての過程にわたって、社会や働く人々の「環境・安全・健康」を保護するための対策を行い、その活動の成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを図っていく自主管理活動のことです。1985年にカナダで誕生して以来、レスポンシブル・ケアは世界52カ国に導入されています。日本でも1995年に（一社）日本化学工業協会内

に日本レスポンシブル・ケア協議会（現レスポンシブル・ケア委員会）が設立され、109社（2016年4月現在）が会員となっています。当社は設立時より参加し、環境経営、さらにはCSR活動の基盤として、積極的に活動を進めています。

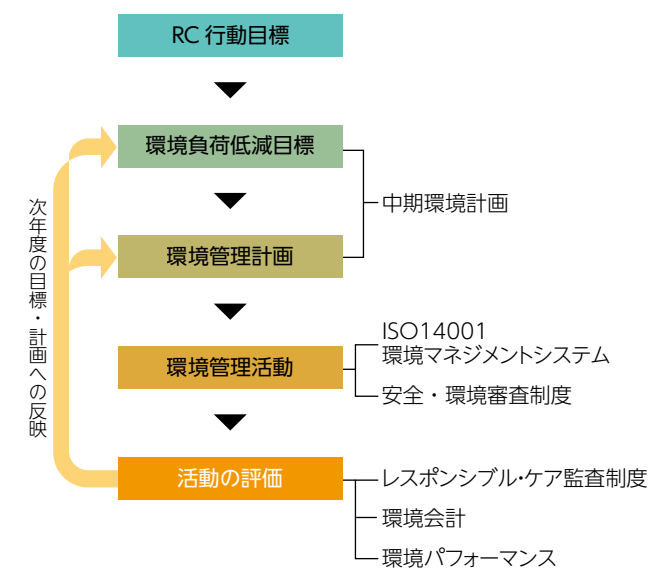
レスポンシブル・ケア推進体制

レスポンシブル・ケア推進体制として当社は、社長執行役員を議長として開催するCSR推進会議の下に審議決定機関として、環境対策委員会、保安対策委員会、製品安全・品質委員会を、また審査機関として製品審査部会などの各部会を設

レスポンシブル・ケア推進体制



レスポンシブル・ケア活動評価管理システム（環境保全）



置し、具体的な活動を行っています。

レスポンシブル・ケア活動評価管理システム

レスポンシブル・ケア分野における中期計画を策定し、この計画達成に向けて、年度ごとの方針および目標を定め、それに基づいて部門ごとに具体的計画を作成し、活動しています。活動の結果は年度末に評価し、次年度の計画に反映しています。

なお、会社の中期事業計画にあわせ、2015年度を初年度とする新3カ年計画を策定し、活動を進めています。

マネジメントシステムの運用

ISO14001 環境マネジメントシステム

徳山製造所および鹿島工場では、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得しています。全社の環境方針に基づいて、事業所ごとに環境方針および目標を設定し、環境負荷低減、省エネルギー、廃棄物の削減、資源リサイクルなどの活動を行っています。

本部、支店、研究所においても、規模に応じてそれぞれ方針と目標を設定し、省エネルギー、資源リサイクルの推進、

廃棄物の削減などの活動を行っています。

ISO9001 品質マネジメントシステム

ISO9001 品質マネジメントシステムの認証を取得しています。2002年度より営業、開発部署を含めた全社システムとして運用しています。

労働安全衛生マネジメントシステム

（一社）日本化学工業協会の「日化協・新労働安全衛生指針」に基づき、事業所ごとに労働安全衛生マネジメントシステムを構築し、運用しています。徳山製造所では2005年度から保安活動も取り入れた保安管理システムへと拡充しました。

審査制度

各種審査制度を設けて、環境・安全にかかわるリスクの低減に努めています。

安全・環境審査

設備の新設、増設、改造を行う際には、事前に安全・環境審査を行っています。設備の安全設計、取り扱い物質の安全性、法規制への適合、環境への影響などを審査し、安全で運

レスポンシブル・ケアの基本理念

基本指針

株式会社トクヤマは、日本レスポンシブル・ケア委員会の一員として、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費、廃棄の全ライフサイクルにわたって、環境・安全・健康を守るレスポンシブル・ケア活動を実行します。

とりわけ環境問題に対して積極的に取り組み、かつ計画的に解決していくことが、社会的使命であり、企業と社会の持続的発展につながるとの認識に立ち、開発、製造や営業などの事業活動におけるすべての過程で、環境という視点を重視する『環境経営』を推進します。

行動目標

①環境保護を推進します

・ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを運用し、環境負荷の低減を図ります。

②法規制を遵守します

・国際規則、国内法規、業界規範を遵守します。
・規制物資の輸出管理の徹底を図ります。

③省エネルギーを推進し、地球温暖化を抑制します

・各製品毎に、業界上位のエネルギー消費原単位を達成します。

④資源リサイクルを推進し、廃棄物の削減と適正管理を図ります

・資源のマテリアルリサイクル、サーマルリサイクルを推進します。
・オフィス内のペーパーレスを推進します。

⑤保安防災、労働安全衛生を推進します

・自主保安・自己責任の原則のもとに、事故・災害発生ゼロを目指します。
・快適な職場環境を確保して、安全と健康を守ります。

⑥製品安全性の確保を徹底します

・環境負荷が小さく、安心して使用できる製品を提供します。
・製品の正しい使い方や注意等の適切な情報を提供します。

⑦社会との信頼関係の向上を図ります

・環境保護、保安防災、労働安全衛生、化学品安全に関する当社の活動について、社会への情報開示を進めます。
・地域社会との対話を積極的に行います。

転しやすく、設備保全が容易で、事故・災害の発生しない設備づくりを目指しています。審査は「基本計画審査」「設計審査」「運転前審査」の3段階で行い、安全にかつ環境に配慮して設備が設計されているか、また設計どおり設備が完成し運転準備は万全であるかなどを段階に応じて審査しています。

製品審査および表示審査

製品の安全性を確保するために、研究開発から製品を市場に送り出すまでの各段階で、製品の安全性に関する審査を行っています。化学物質の安全性、環境への影響、人の健康への影響などさまざまな角度からリスク評価および法的要求事項への適合性を審査しています。また、表示審査を行い、カタログ、取り扱い説明書およびSDS*（安全データシート）などの表示類に指示・警告上の欠陥や不適切な表現がないように努めています。

* SDS: Safety Data Sheet の略称で、化学製品の危険有害性について安全な取り扱いを確保するために、その物質名、安全対策および緊急事態への対策などに関する情報を記載した資料。

レスポンシブル・ケア推進体制とマネジメントシステムの運用

全社方針に従って各事業所が適切に活動が行われているかを検証する目的で、監査制度を設けています。

保安・環境監査

事故・災害の防止および環境保全のための管理状況の適否について、毎年定期的に保安・環境監査を行っています。監査は保安・環境対策委員長である取締役を班長として、各事業所、高圧ガス保安法に基づく認定検査管理組織、購買・物流および健康管理センターを対象に行われます。また、徳山製造所については、高圧ガス認定（完成・保安）実施者として、

2015年に5年ごとの更新審査による経済産業大臣の認定を受けており、前述の監査により、高圧ガス保安管理システムの運用状況および検査管理組織が的確に機能しているかを評価しています。なお、監査結果は報告書として取りまとめられ、関係した部署への配付とともに社長執行役員へも報告して、継続的な改善を図っています。

第三者による審査

審査登録機関によるISO9001およびISO14001の審査を受けています。ISO9001の維持審査は、2016年4月に受審し、4件の指摘事項（改善の機会）があり、対応を検討しています。また、ISO14001の維持審査は、2015年10月（徳山製造所）、12月（鹿島工場）に受審し、5件の指摘事項（改善の機会）があり、適正に対応しました。

内部監査

ISO9001、ISO14001、労働安全衛生マネジメントシステムに基づき、内部監査を定期的に実施しています。活動計画の進捗やシステムの運用などの状況をチェックし、不具合箇所があれば指摘し、是正処置を求めます。

教育訓練

レスポンシブル・ケア全般に関する従業員教育は、階層別集合教育の中で対象者全員に対して行っています。一方、環境管理、保安管理、労働安全衛生、品質管理に関しては、それぞれの管理活動の中で実務的な教育訓練を行っています。



鹿島工場保安・環境監査



現場巡視

2015年度レスポンシブル・ケア活動の重点課題と実績

達成度：達成A 未達B

区分	重点課題	実績	達成度
マネジメント	経営トップによる見直し	● CSR 推進会議 ● 保安・環境監査	A A
環境保全	● 法的要求事項等の遵守 ● 環境事故ゼロ ● 環境負荷低減目標の達成 環境負荷物質排出削減・維持 部署管理目標値 超過部署数ゼロの達成 省エネルギー・節電の推進 廃棄物ゼロエミッションの維持・推進 ● 環境マネジメントシステムの継続的改善	● 法的要求事項の遵守を徹底 ● 環境事故ゼロを継続 ● 環境負荷物質排出削減 3部署で管理目標値未達 ● 省エネルギーの推進 エネルギー消費原単位削減 廃棄物の有効利用率 94% 維持 ● ゼロエミッション率 99% 維持 ● 環境マネジメントシステムの継続的改善 簡素化に向けて文書・様式の見直し 内部監査の実施、第三者審査の受診	A A B A A A A A
保安防災 労働安全衛生	● 無事故・無災害 ● 保安管理システムの充実 ● リスク管理・危機管理の推進 ● 心とからだの健康づくり推進	● 事故2件発生 ● 従業員 死亡災害1件、不労災害2件 協力会 不労災害1件 ● 保安管理システムの充実 非定常時リスクアセスメントの検討 ヒヤリハット活動の充実 保安情報の共有化と活用 ● リスク管理・危機管理の推進 各種防災訓練の実施 首都圏直下型地震のBCP運用 徳山製造所 南海トラフ巨大地震等を想定した検討 ● 心とからだの健康づくり 個人の健康意識の向上 メンタルヘルス対策・生活習慣病対策を重点に健康管理活動を推進	B B B A A A A A A B A
化学品安全	● 製品の安全性確保	● 製品審査・表示審査の実施 ● SDSの整備 ● JIPS*への積極的参加 ● 海外の化学品規制への対応	A A A A
地域・社会との 信頼関係	● 地域活動への参加 ● 地域社会との共生	● 地域のボランティア活動への参加 ● RC 地域対話の実施 ● 工場見学会の実施	A A A
グループ会社への レスポンシブル・ケア の推進	● レスポンシブル・ケア活動の普及推進	● 保安・環境・品質監査の実施 ● レスポンシブル・ケア関連情報の共有化 メールマガジンによる定期的な情報提供（1回/月）	A A

* JIPS：Japan Initiative of Product Stewardshipの略、日本化学工業会が推進する化学品管理自主活動化学物質（製品）の有害危険性の情報を収集し、解析した上で、使用・用途の情報をあわせてリスク評価（暴露量と安全量の比較）を行う。そのリスク評価の結果に基づき、作業安全や消費者保護および環境影響の低減のため適切な管理を行い、その結果をサプライチェーンおよび社会一般に公開する活動。

保安防災・労働安全衛生

無事故・無災害と
快適な職場環境づくりで
社会との共生を

「保安は事業活動の基本であり、
保安の確保は社会との共生の第一歩である」
という姿勢の下、徹底した保安防災活動と
労働安全衛生活動を実施し、
無事故・無災害を目指すとともに
良好な職場環境の確保に努めています。

保安・防災への取り組み

総合的な防災・保安活動

当社は保安の3原則として、「保安は①企業市民として果たすべき社会的責務②事業活動のすべてに優先③全社員の責任ある意識と行動により確保できる」を掲げ、設備および作業の安全確保に対し徹底した取り組みを実施しています。具体的には、安全パトロール、KY(危険予知)、ヒヤリハット、5S(整理、整頓、清潔、清掃、しつけ)、指差呼称などの安全の基本活動を徹底し、継続的な発展に取り組んでいます。リスク管理、危機管理の推進については、保安管理システムを推進し、レベル向上を図ることにより、事故・災害の防止に努めています。



危機対策本部にて指示を出す、横田危機対策本部長

BCP 初動対応訓練および防災訓練

「南海トラフ巨大地震」を想定し、東京本部を中心に名古屋営業所以西の事業所を含めたBCP(事業継続計画)の初動対応訓練を実施しました。徳山製造所では災害に対応するために職場の基準・防災マップの策定にとりかかっています。また、地震によるタンクの配管からの液漏れおよび火災を想定した総合防災訓練をはじめ、部署別防災訓練、関連会社・協力会共同防災訓練や所内での防災競技大会の実施などさまざまな訓練を実施し、万一来臨しています。

安全成績 無災害記録継続への挑戦

徳山製造所では事故が2件発生し、7年間続いていた無事故が途切れてしまいました。鹿島工場では2012年度以降無事故を継続し、つくば研究所では18年連続無事故を継続しています。一方、労働災害に関して、徳山製造所では従業員の死亡災害が1件、不労災害が1件発生し、つくば研究所では不労災害が1件発生しました。協力会においては、徳山製造所では不労災害が1件発生しました。引き続き、「事故・災害ゼロ」の達成に向けて安全活動に取り組めます。

労働安全衛生への取り組み

保安管理システムの充実

各事業所のシステムとして定着し、作業面、設備面、プロセス面のリスクアセスメントを実施し、継続的に改善することで、潜在的危険要因の徹底排除を図っています。変更管理の仕組みを見直し、計画から効果の確認に至るまで抜けのない管理ができるよう改善しました。また、ヒヤリハット活動を強化し、新たな危険源の特定によりリスクアセスメントへ展開し、その対策を実施しています。近年、化学工場の爆発火災の重大事故が発生しており、いずれも緊急停止時や通常起動・停止時、設備の保守作業中などの「非定常作業」で発生していることから、当社も改めて非定常時(異常時を含む)の誤作動や誤動作を想定したプロセスリスクアセスメントに取り組んでいます。

協力会員の安全衛生活動の推進

協力会社と一体となり、①合同安全会議での計画的な安全教育と現場状況の共有化の充実、②安全パトロールでの工事業業者への安全指導の強化と、不安全箇所・作業の指摘・改善、③監督者能力向上研修、危険体験研修での技量アップ、④作業手順の確認と危険予知の徹底等の活動を実施しています。

心とからだの健康づくりの推進

快適な職場環境の確保を目指し、有害物質取扱作業場における局所排気装置の適正能力維持の確認を行い、「作業環境(第1管理区分*)の完全継続」を達成しています。
個人の健康意識の向上のため、体重管理と生活習慣の改善に対する自己評価を毎月記入する「スマートライフ・プログラ



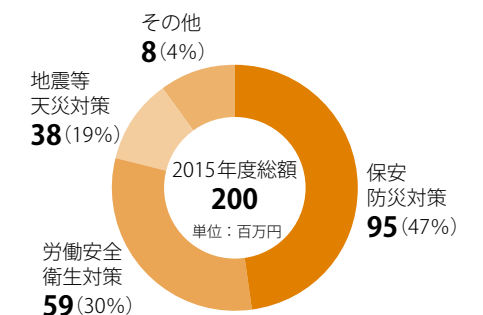
総合防災訓練(出初め式)

ム活動」を実施しています。また、健康診断結果に基づく個人面談(保険指導)の実施、上司による再検査受診勧奨など、有所見者率の低減に向けて活動しています。

心の健康については、全従業員を対象にWebによる職業性ストレス診断調査を実施し、配慮の必要な人に対しては、さらにフォローを行っています。

*第1管理区分：単位作業場所のほとんど(95%以上)で大気中有害物質の濃度が管理濃度を超えない状態。

安全防災・労働安全衛生対策投資



2016年度全社保安管理方針

株式会社トクヤマは、【保安の姿勢】と【保安3原則】に基づき、以下の保安管理方針を定め、企業市民として保安活動を積極的に推進する。

- トップ・マネジメントの率先垂範のもと、全員参加による保安活動を推進する。
- 法令の遵守はもとより、自ら決めたことは確実に遵守する。
- 安全文化の醸成・向上により、人と設備と社会の安全を確保する。
- 快適な職場環境を確保し、心とからだの健康づくりを推進する。

2016年度 全社保安管理目標および重点実施項目

各事業所は、今年度の重点実施項目を保安管理活動へ反映し、積極的に推進することにより、目標の達成に向け取り組んでいく。

目標

- 法令違反ゼロ
- 無事故・無災害
- 休業率の低減

重点実施項目

《保安管理レベルの向上》

経営トップによる現場巡視／基準書類の整備、充実／変更管理の充実／保安教育訓練体系の棚卸し

《危険源の特定及び改善》

非定常時のリスクアセスメントの展開／化学物質のリスクアセスメントの対応および充実／危険予知活動の推進

《リスク管理、危機管理の推進》

南海トラフ等巨大地震への対応

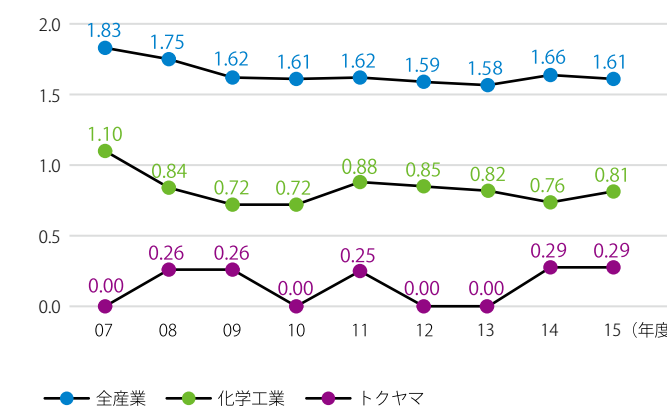
《設備管理の推進》

設備検査の推進／設備リスク特定の拡充

《心とからだの健康づくりの推進》

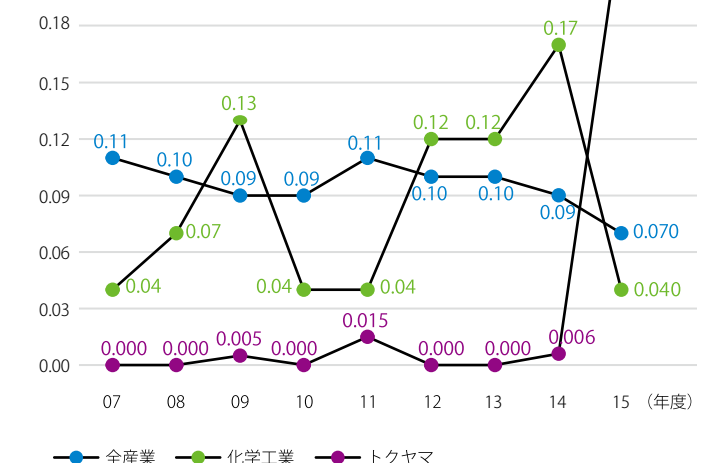
スマートライフ・プログラムの推進／メンタルヘルスの推進

休業度数率*1の推移



*1 休業度数率：100万延労働時間あたりの労働災害による休業者数で表示し、労働災害発生頻度を表す。

休業強度率*2の推移



*2 休業強度率：1,000延労働時間あたりの労働損失日数で表示し、発生した労働災害の大きさを表す。

従業員とともに

女性活躍推進を中心に ダイバーシティーに取り組む

多様性を受け入れ、働きがいを向上させて人材力の発揮を促進することにより、変化し続ける環境や顧客ニーズに応える、ダイバーシティー。トクヤマでは、女性社員が生き生きと働き、その能力を存分に発揮することをダイバーシティー推進の中心に位置づけ、女性の活躍を企業価値の向上につなげる取り組みを行っています。

女性活躍推進に関する行動計画を策定

2016年4月、女性活躍推進法の施行に伴い、トクヤマは女性活躍推進に関する行動計画を策定・公表しました。2020年度末の時点で4つの目標を達成するために、さまざまな取り組みを実施していきます。

行動計画の策定に先立ち、女性の活躍に関する状況を把握・分析した結果、男女の平均勤続年数にほとんど差がなく、有給休暇取得率も高いことがわかりました。一方で、女性の活躍の場が限定されており、また複数の職種を経験している者が少なく、それが女性社員の成長を阻害し、管理職比率の低さにつながっていることが明らかになりました。そこで職務領域の拡大と女性管理職比率の向上に重点的に取り組んでいくこ

男性や同僚・上司を巻き込んで 女性活躍を阻む意識の壁を取り除く

人事グループ 主席 藤原 直樹



女性の活躍を促すためには女性社員と男性社員・上司、職場全体の意識を変えていく必要があります。「自分には無理」「女性には難しいだろう」といった思い込みや意識の壁を取り除いていくことです。そのため、本年は職場の意識の転換を目指したDIM研修を計画しています。この研修では女性社員を対象に、男性上司を一部加えてともに取り組むことにより、互いに問題点に気づかせ、意識の転換を図ります。

最終目的としては、職場全体の意識改革を促すとともに、後輩のロールモデルとなる自立型人材を育成し、女性活躍推進法への対応にとどまらず、企業価値の向上につなげていきたいと考えています。



トクヤママレーシアでは中央制御室で女性オペレーターが活躍

DIM：Diversity & Inclusion Management（多様性の受容経営）
多様な人材に活躍・成長の場を与え、組織の活力・創造力の向上を目指す経営。

ととしています。

目標1の採用に関しては、女子学生へのアプローチの強化とともに、2016年にはウェルカムバック制度*が導入されました。これは結婚、出産・育児、介護等を理由に退職した社員に、男女を問わず復職の機会を設けるものです。目標2については、コミュニケーション力アップやロジカルシンキングなど、キャリア形成を意識づける研修を対象者を絞らずに実施する予



セメント製造現場で原料サンプリングの打ち合わせをする女性技術員

株式会社トクヤマ女性活躍推進に関する行動計画 計画期間：2016年4月1日～2020年3月31日

目標1 学卒以上総合コースの女性採用比率20%以上を維持
(3年移動平均)

2016年4月～ 女子学生に対するアプローチ強化
リエントリー制度*の理解と浸透を図る

目標2 2020年までに主任（係長クラス）の女性比率6%以上

2016年4月～ キャリア形成（意識向上）研修を実施
2017年4月～ スキルアップ研修への参加を促す

目標3 2020年までに管理職（課長クラス）以上の女性比率2%以上

2017年4月～ 管理職を見据えた能力開発研修の実施
メンター制度導入検討

目標4 2020年までに営業職10人以上、製造部に20人以上を配置

2016年4月～ 所属長ヒアリング等により女性配属の課題を把握し、解決策を検討する
女性活躍推進に関する情報を社内共有し、啓発活動を行う
2017年4月～ 管理職向け研修により、男性管理職にも意識変革を促す

*退職者復職登録（リエントリー）制度。当社では「ウェルカムバック制度」と呼ぶ。

定です。目標3の管理職やその候補となる主任職の女性比率向上のためには、リーダシップやマネジメント能力向上などの研修を実施していきます。また、経験豊かな先輩社員（メンター）がキャリア形成や悩みの相談に乗り、個人の成長をサポートするメンター制度についても、導入に向けて2017年から検討を始めます。目標4については、目標1の採用での取り組みに加え、ジョブローテーションを活用して女性比率が低い営業と製造現場にも本人の希望や適性を見ながら女性を積極的に配置することで達成を目指します。

仕事と家事・育児の両立をサポート

女性活躍のための前提となるワーク・ライフ・バランスの充実にも積極的に取り組んでいます。育児休業・介護休業ともに、法の規定を上回る手厚い制度が用意されているほか、社員同士が助け合う取り組みも行われています。

自分の経験は次に悩めるママさんのために

MAグループ（ジェネリック医薬品原薬の開発担当） 弘中 好美
「働くお母さん集合！プレママも！」活動リーダー



これまで自分が仕事や家事育児に悩みながらも奮闘してきた経験を、これからの方に少しでも役立てて欲しいという思いから活動を続けてきました。

現役で活躍しているママさんをはじめ、妊娠中や育児休暇中の方にも声を掛け、悩み相談や情報交換の場を提供しています。活動の軸は社内イントラネット上に開設した「ママネット」やランチ交流会の開催ですが、助け合いの輪がより広がることを目指し、セミナーの開催や社内外との情報交換等、幅広く活動を展開しています。

社会貢献活動

地域社会とともに子どもの 成長を支える

トクヤマは社会から必要とされる企業であり続けるため、さまざまな活動を行っています。学童保育など新しい取り組みのほか、地域コミュニティとの対話を通じて保安防災や環境保全活動への理解を得ています。



アクスキッズ（教室で勉強中）

周南スイミングクラブで 民間学童保育をスタート

徳山製造所に隣接し、設立当初から工場廃熱を利用してスイミング・フィットネスクラブを運営する株式会社周南スイミングクラブは、山口県初となる民間の学童保育「アクスキッズ」を2016年4月からスタートしました。アクスキッズは近隣に住む小学1年生から3年生を対象に平日、学校の授業終了後から19時まで*児童を預かり、子どもたちが楽しみながら、自らの可能性を広げるための多彩なプログラムを提供しています。

スイミングやテニス、ダンス、基礎的な運動能力を身につけるわんぱく教室から宿題・学習サポート、英会話まで、すべてのプログラムは追加料金なしで受けることができ、「よく学び、よく遊び、大きく成長する」学童保育として、地域で注目を集めています。



周南スイミングクラブのホームページ

*平日の通常保育のほかに、土日・祝日を除く春・夏・冬休みや学校の振替休日などでは9時から19時までの1日保育を行っています。

さらなる環境負荷の低減へ環境経営を推進

地球環境保全への積極的な取り組みは、企業が果たすべき重要な社会的責任です。トクヤマは、事業活動におけるすべての過程で、環境という視点を重視する「環境経営」を実践しています。

2015年度の実績

事業活動に伴うマテリアルフロー

事業活動における INPUT・OUTPUT を正確に把握し、新たな目標設定の下、環境負荷の低減に努めています。

2015 年度は、廃棄物有効利用率、ゼロエミッション率の項目で目標を達成しました。エネルギー消費原単位については、2020 年度までに 2005 年度比で 3.0%改善するという新たな目標に向け順調に推移しました。

パフォーマンスデータの 2015 年度以降の目標値については、現状の低負荷状態を維持するため、部署ごとに管理目標値を決定して活動し、環境への低負荷状態を維持・推進しています。

環境会計

環境保全に要した投資や費用およびその効果を把握・分析し、効果的な環境投資に役立てる目的で、2000 年度から環境会計の集計を行っています。

環境コスト

環境投資のうち、公害防止投資が 56%、次いで資源循環関連が 29%、地球環境保全関連が 11% となっています。費用面では公害防止が 69%、資源循環関連が 17%、地球環境保全関連費用が 7% となっています。2015 年度の環境投資の主要なものは電気集塵機内部装置の更新や塩ビ分解炉燃料変更に伴う設備改造などです。

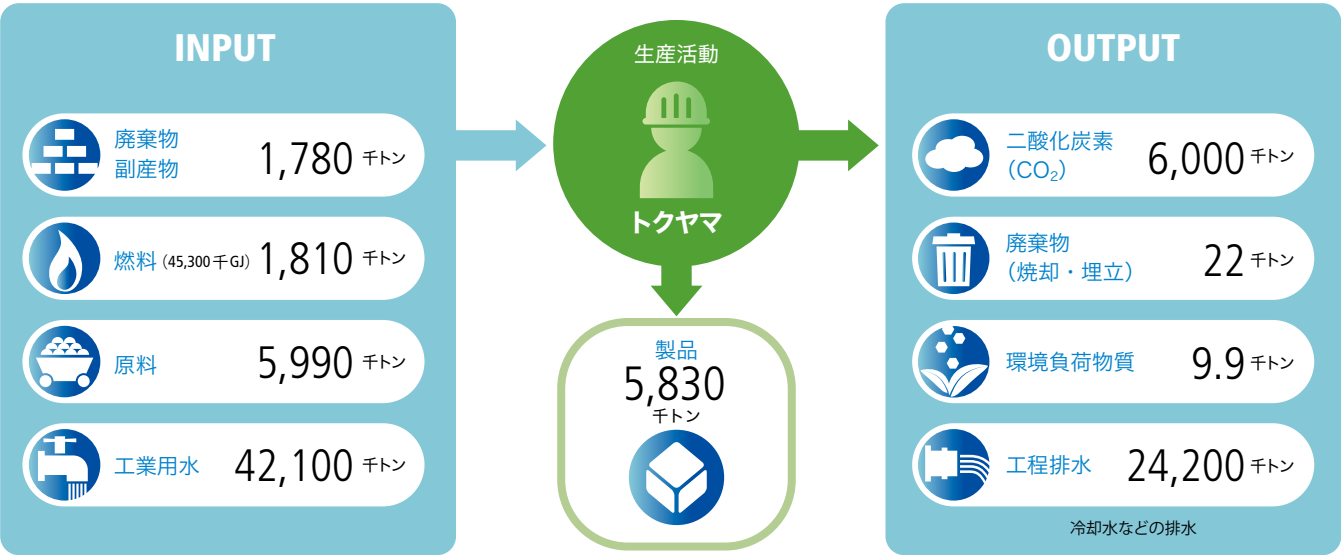
経済効果

経済効果は、省エネルギーによる節減益、廃棄物の有価物の売却益、廃棄物の再利用による処理費および原燃料費の節減益の実質的效果のみを算出しています。2015 年度は前年度より約 45 百万円増の約 15 億円の経済効果となりました。

地球温暖化防止に向けて

地球温暖化防止に向けた取り組みは、重要な課題です。経団連が自主的に取り組んでいる「低炭素社会実行計画」に対して、傘下の業界を通じ 2020 年の削減目標等をあげ取り組んでいます。事業活動において省エネルギーで着実な成果を上げるとともに、従業員の家庭における省エネの推進に向けた支援にも取り組んでいます。

事業活動に伴うマテリアルフロー

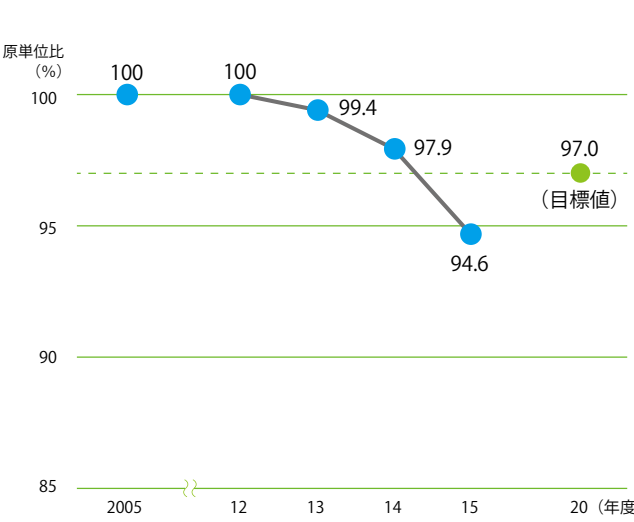


*数値はすべて 2015 年度 トクヤマ単体

環境保全コスト

環境保全費用の分類	主な取り組み内容	投資金額 (百万円)	費用総額 (百万円)
事業エリア内コスト	公害防止	電気集塵機、排水管敷設、分解炉の設備改造ほか	500
	地球環境保全	空調設備の更新ほか	95
	資源循環	脱塩設備能力増強、PCB 廃棄物処理費用ほか	256
上・下流コスト		0	2
管理活動コスト		環境分析装置の更新・設置	47
研究開発コスト		0	0
社会活動コスト		緑化・美化対策、CSR 報告書制作	0
環境損傷コスト		賦課金、鉱山跡地管理	0
合計		898	6,002

エネルギー消費原単位指数*の推移 (徳山製造所)



*日化協が推奨する基準製品換算方式による

2015年度環境保全活動の実績 (徳山製造所)

評価：達成○、目標未達×

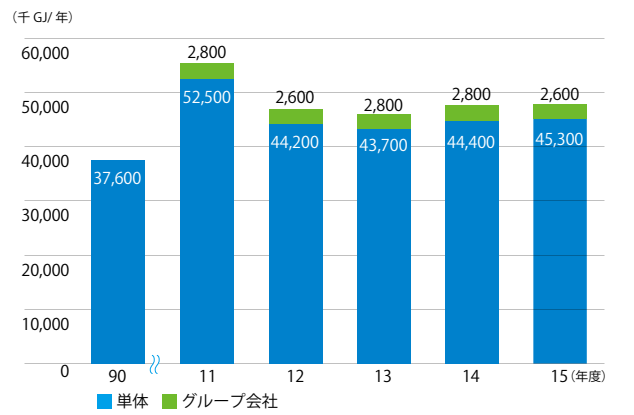
分類	項目		2015 年度目標	2015 年度実績	評価	2016 年度目標
環境負荷低減	大気	ばいじん	低負荷な現状水準の維持	2%	＊	低負荷な現状水準の維持
	水質	COD		13%	＊	
		N		3%	＊	
		P		△ 15%	＊	
	PRTR	PRTR		46%	＊	
地球環境保全	省エネルギー	エネルギー消費原単位率	2020 年度までに 3% 改善 (2005 年度比) 2015 年度は 0.9% 改善	△ 5.4%	○	製品のエネルギー消費原単位の向上 2005 年度比 0.8% 改善
廃棄物削減	リサイクル	廃棄物有効利用率	94% 維持	94.3%	○	94% 維持
	ゼロエミッション	ゼロエミッション率	99.9% 維持	99.9%	○	99.9% 維持

*パフォーマンスデータの目標値については、現状の低負荷状態を維持するため、部署ごとに管理目標値を決定し、活動しています。そのため、大気、水質、PRTRについて製造所全体としての数値目標は設けず、実績の前年度比を記載しています。

2015年度経済効果

項目	物量効果 (千トン)	経済効果 (百万円)
省エネルギーによる節減益	-	172
有価物の売却益	87	132
廃棄物処理費の節減益	274	708
廃棄物の再利用による原料の削減益	274	495
合計	-	1,507

エネルギー使用量推移



省エネルギーの推進

当社は、主要製品である苛性ソーダ、セメント、多結晶シリコンなどの製造過程において多量のエネルギーを消費しています。温室効果ガスの一つである二酸化炭素（CO₂）は主に化石燃料の燃焼によって発生し、さらにセメントの製造工程などにおける石灰石（原料）の脱炭酸によっても発生しています。

当社は地球温暖化防止への取り組みを重要な課題として認識し、省エネルギー型の機器への更新など省エネルギー活動を通じたCO₂排出抑制に取り組んでいます。当社のエネルギー使用量の99%以上を占めている徳山製造所では、2014年度からエネルギー消費原単位について、2020年度までに2005年度比で3.0%改善するとの目標をあげて活動しています。2015年度は、使用する石炭の単位発熱量が前年度比で向上したことも寄与して、5.4%まで改善されました。

オフィスにおける取り組み

2015年度は、東京本部では、引き続き「クールビズ」の実施、空調温度管理の徹底、照明の間引き、PC省エネ設定を行いました。

民生部門での温暖化対策への貢献

当社グループでは、住宅の省エネに威力を発揮する樹脂サッシ「シャノン」を通じてCO₂排出削減に貢献しています。

また、太陽電池向け多結晶シリコンや燃料電池用の電解質膜の開発など、地球温暖化対策に貢献する技術開発を推進しています。

地球温暖化防止奨励制度

当社は、CSR推進の立場から環境、省エネルギー、社会貢献などの取り組みの一環として、2008年4月に当社グループ社員を対象に『地球温暖化防止奨励制度』をスタートしました。これは当社グループの事業に関係の深い環境配慮型商品（「住宅用樹脂サッシ」と「太陽光発電システム」）の導入費

環境配慮型商品の利用状況

	樹脂サッシ		太陽光発電	
	給付件数	(窓)	給付件数	(kw)
2011年度	13	174	22	87
2012年度	6	61	23	108
2013年度	8	113	34	180
2014年度	8	80	11	58
2015年度	4	48	9	70
累計	65	885	143	690

* 2008年度からの累計

用の一部を補助することで、グループ社員に対し地球温暖化防止への意識喚起と省エネルギーの実践を奨励し、家庭部門のCO₂ガス排出削減に寄与することを目的としています。制度開始から8年が経過しましたが、経営環境が厳しい2015年度も引き続き本制度が維持されました。その利用状況は上の表のとおりです。

また当社グループウェア上に専用のポータルサイトを開設し、利用状況を逐次報告するとともに、地球温暖化に関するサイトを紹介するなど、啓発活動に努めています。

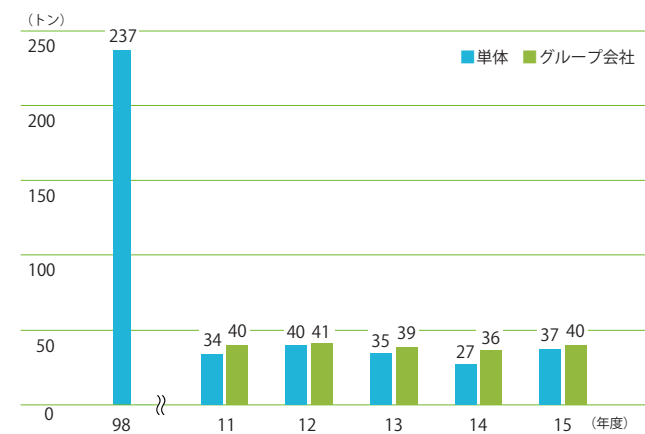
大気・水質汚染物質削減

当社では、早い時期から継続的に大気や水質への環境汚染物質の排出を低減するために、さまざまな施策を実施し、環境保全に積極的に取り組んでいます。

大気汚染物質排出量

発生源であるボイラー、セメント焼成炉などには、排煙脱

PRTR法対象物質の排出量推移



硫装置、脱硝設備、低NOxバーナー、高性能集じん装置などの排出削減設備を設置し、SOx（硫黄酸化物）、NOx（窒素酸化物）や、ばいじんの排出削減に努めています。2015年度は、対象設備の稼働率の増加に伴い、SOxの排出量は増加しました。NOx、ばいじんの排出量は前年並みとなりました。

PRTR法対象物質排出量

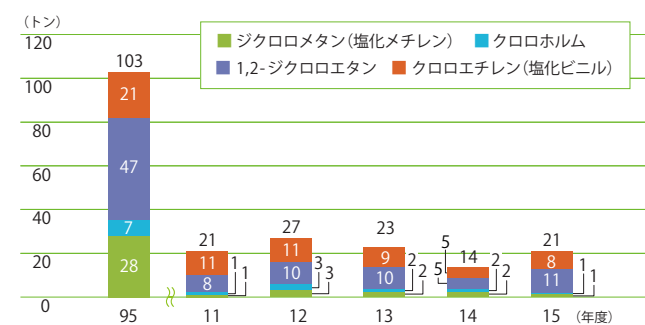
当社が2015年度に取り扱った物質のうち、24物質がPRTR*法の届け出対象となっています。2015年度は各所で排出量削減対策を実施しましたが、関連設備の稼働率の増加に伴い、トクヤマ単体では、排出量が37トンと増加しました。

* PRTR-Pollutant Release and Transfer Register 有害性のある化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを集計し、公表する仕組み。

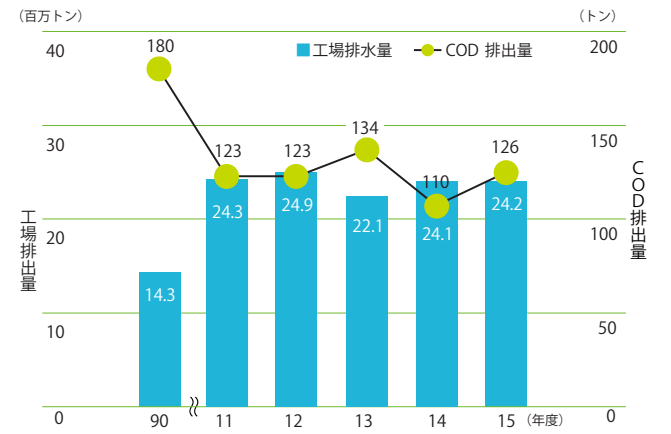
有害大気汚染物質排出量

大気汚染防止法に基づく自主管理12物質のうち、当社が生産しているクロロエチレンなどの4物質については、自主的削減計画を設定し、継続的に対策を実施しています。

有害大気汚染物質の排出推移



工場排水量・COD排出量推移



ダイオキシン対策

廃油焼却炉、および塩化ビニルモノマー製造施設の一部が「ダイオキシン類対策特別措置法」の規制対象設備です。これらに関しては、排ガスおよび排水のダイオキシン濃度の測定を行い、法規制値を十分下回る数値を維持しています。

工場排水量、水質汚濁物質排出量

徳山製造所では、法規制値、地元自治体との協定値を遵守すべく、さらに厳しい自主管理値を設けて管理（汚染物質の監視、排水処理設備による浄化）の徹底を図っています。水質総量規制の対象となるCOD*（化学的酸素要求量）や窒素、リンについては、活性汚泥処理設備などにより排出削減を行っています。

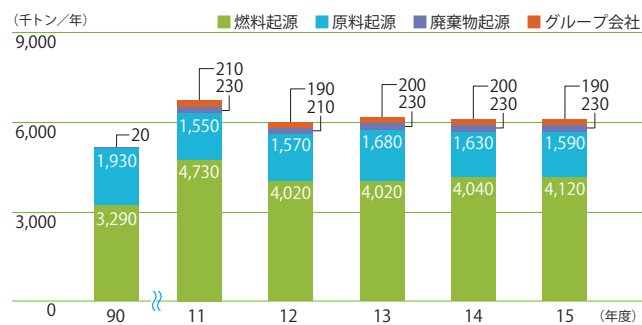
2015年度は、CODおよび窒素の排出量は関連設備の稼働率の増加や再稼働により増加し、リンの排出量は、例年並みで推移しました。

* COD: Chemical Oxygen Demand 化学的酸素要求量。水の汚れを表す指標の一つ。水中の有機物を酸化するのに消費される酸素。

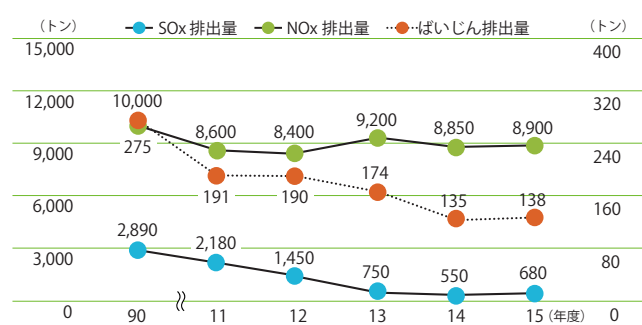
窒素・リンの排出量（トン）

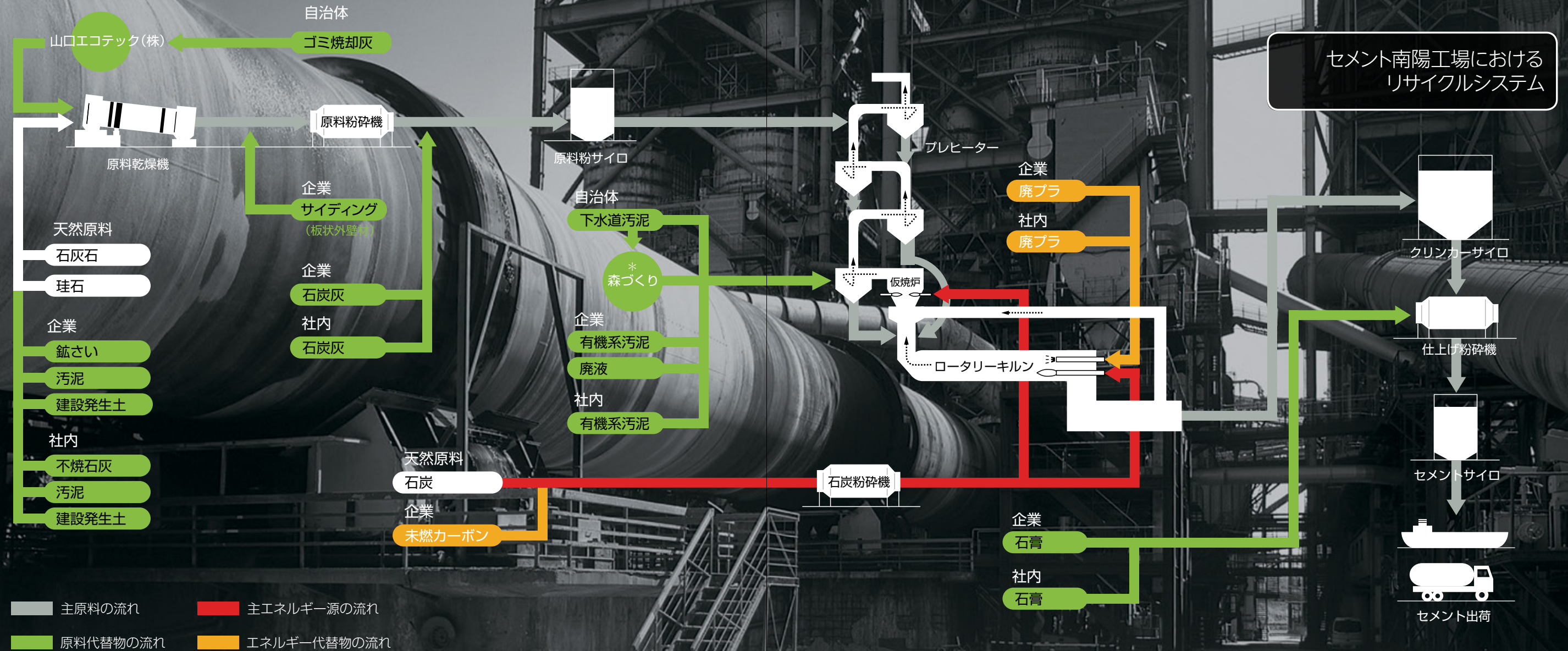
	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
窒素排出量	108	94	70	89	92
リン排出量	2.8	2.7	2.4	2.6	2.2

CO₂排出量



SOx、NOx、ばいじんの排出量推移





廃棄物の削減・リサイクル

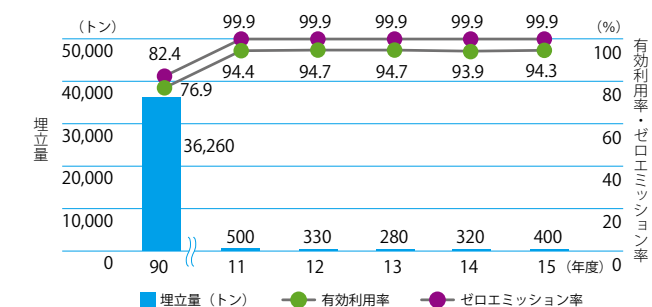
廃棄物の減量化・リサイクルの徹底により、2015年度も廃棄物有効利用率94%、ゼロエミッション率99.9%を維持しています。

▶ 廃棄物の管理

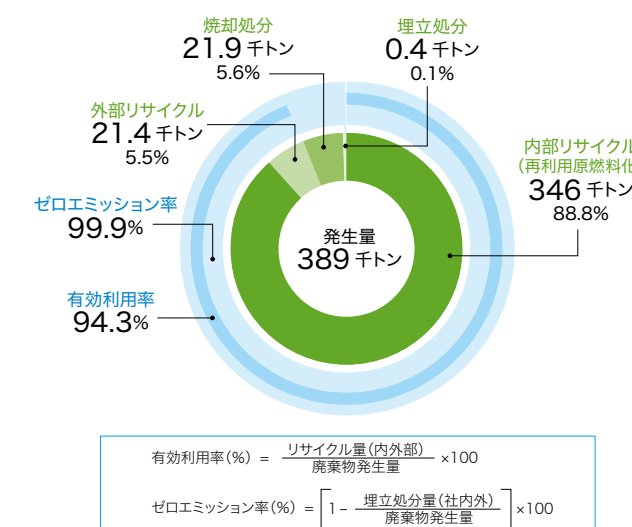
2015年度の当社の廃棄物の発生量は389千トンでした。発生した廃棄物は、徳山製造所でのセメントの原燃料としての再利用を中心に、社内外でのリサイクルを積極的に推進しました。また、梱包材、パレットなどの木屑については、破碎後、発電所燃料として有効利用を図っています。さらに、セメント原料への廃棄物の再利用などを積極的に展開し、廃棄物有効利用率は94%を維持しました。また、廃棄物の再利用と減量

化を推進することにより、埋立廃棄に関するゼロエミッション率は99.9%と高い値を維持しています。

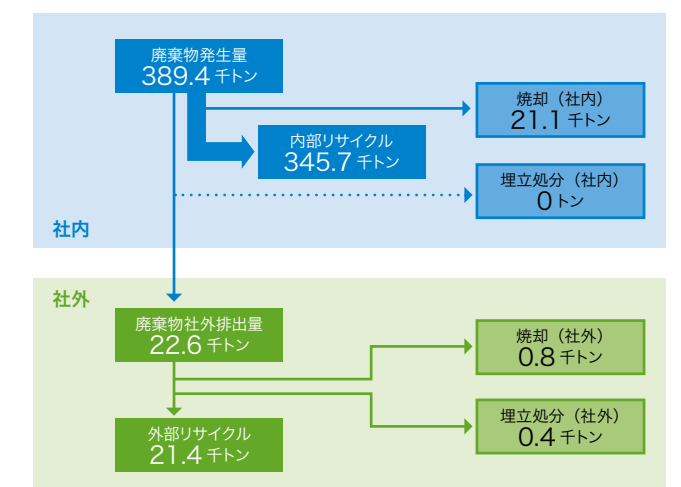
廃棄物の埋立処分量と有効利用率などの推移



2015年度産業廃棄物処理内訳



産業廃棄物処理のフロー



社会貢献活動

地域社会と
コミュニケーションを重ねる

トクヤマは地域コミュニティとの対話を通じて、保安防災や環境保全への取り組みについて理解を深めていただくなど、地域・社会から必要とされる企業であり続けるため、さまざまな活動を行っています。



「徳山製造所 RC 地域対話」で水素ステーションを見学

徳山製造所レスポンスブル・ケア
地域対話

徳山製造所では、2004 年度から毎年、製造所における保安防災と環境保全への取り組みを近隣の自治会の皆さまにご理解いただくことを目的に、『徳山製造所 RC 地域対話』を開催しています。

2015 年度は、9 月 17 日に 3 部構成（説明会、施設見学、情報交換会）で開催しました。12 回目の開催となった今回は、水素利活用をテーマに、自治会から 35 名、周南市から 8 名、当社からは製造所長をはじめ 16 名が参加しました。

説明会では、会社概要、製品、環境・安全への取り組み、トピックスを紹介しました。また、製造部長による環境・安全

に対する決意表明、ならびに当社の水素事業と水素の性質の説明を行いました。

施設見学では、当社の水素関連施設を案内した後、2015 年夏に周南市内にオープンした水素ステーション「イワタニ水素ステーション山口周南」において、周南市より行政の水素利活用についての取り組みの説明および燃料電池自動車の展示・説明が行われました。

情報交換会では、当社の近況や地域貢献活動を紹介しました。自治会参加者からは「水素社会の実現に向けた行政とトクヤマの取り組みや地域貢献が理解できた」等のご意見をいただきました。

今後も地域の皆さまのご理解とご支援の下、製造所スタッフが一丸となり、保安防災と環境保全に真摯に取り組んでいきます。



「RC 地域対話」説明会のようす



左：水素ステーションを見学
右：燃料電池自動車

徳山製造所

所在地： 山口県周南市御影町 1-1
従業員数： 1,512 人
敷地： 総面積 191 万㎡
主要製品： セメント、無機化学製品、有機化学製品、多結晶シリコン、乾式シリカ、塩化ビニルなど



徳山製造所長
安達 秀樹



徳山製造所は当社創業の地であり、単体売上約 9 割を占める、トクヤマのマザーファクトリーです。「元気で出社、笑顔で帰宅」をスローガンに掲げ、徳山製造所で働くすべての人が元気で安全に仕事ができるよう、地道に労働安全衛生活動、環境保全活動に取り組んでいます。目的である「徳山製造所で働くすべての人が、誰一人として怪我をすることなく、誰一人として命をなくすことがない」ように、従業員無災害記録 540 万時間、協定会無災害記録 900 万時間達成を目標に掲げ、2016 年度は、①「有害物等との接触」に係わる危険源の特定と排除、②活発な「安全対話」による現場に残存する危険の芽の排除、③危険感受性を高める危険体験研修の全従業員への受講の推進——等を最重点施策として取り組んでいます。

パフォーマンスデータ

	単位	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
SOx 排出量	トン	2,180	1,450	750	550	680
NOx 排出量	トン	8,600	8,400	9,200	8,850	8,900
ばいじん排出量	トン	191	190	174	135	138
工水使用量	百万トン	43.8	41.3	42.2	41.7	42.1
排水量	百万トン	24.2	24.8	22.1	23.9	24.2
COD 排出量	トン	119	119	132	110	124
全窒素排出量	トン	108	94	70	89	92
全リン排出量	トン	2.8	2.7	2.4	2.6	2.2
PRTR 法対象物質排出量	トン	32	39	33	25	36
廃棄物発生量	千トン	379	381	395	354	389
廃棄物最終処分量	トン	490	320	277	313	383
エネルギー使用量	千 GJ	52,400	44,100	43,700	44,200	45,100
CO ₂ 排出量（化石燃料起源）	千トン	4,730	4,020	4,010	4,040	4,110
苦情	件	3	0	1	0	1

PRTR 法対象化学物質別 排出・移動量（2015 年度）

単位：トン（ダイオキシン類のみ mg-TEQ）

物質名	政令指定番号	排出量				移動量
		大気	水域	土壌	小計	
1,2-ジクロロエタン	157	10.6	0.0	0.0	10.6	0.3
クロロエチレン（塩化ビニル）	94	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0
トルエン	300	5.1	0.0	0.0	5.1	51.0
クレゾール	86	0.0	3.2	0.0	3.2	0.0
クロロジフルオロメタン	104	2.8	0.0	0.0	2.8	0.0
クロロメタン（塩化メチル）	128	2.4	0.0	0.0	2.4	0.0
ジクロロメタン（塩化メチレン）	186	1.3	0.0	0.0	1.3	0.0
亜鉛の水溶性化合物	1	0.0	1.4	0.0	1.4	0.0
クロロホルム	127	0.7	0.0	0.0	0.7	0.0
1,2-エポキシプロパン（酸化プロピレン）	68	0.6	0.0	0.0	0.6	2.1
1,2-ジクロロプロパン	178	0.4	0.0	0.0	0.4	165.7
四塩化炭素	149	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2,2-アゾビスイソブチロニトリル	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
銅水溶性塩	272	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ヒドラジン	333	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ふっ化水素及びその水溶性塩	374	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ベンゼン	400	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ほう素化合物	405	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
（ダイオキシン類）	243	8.0	1.5	0.0	9.5	0.0
合計（ダイオキシン類を除く）		31.6	4.6	0.0	36.2	219.1

順番： 排出量の多い順、排出量 0 では政令指定番号順
水域： 公共水域
移動量： 下水道への移動＋中間処理
合計： 小数点第三位までの合計値を小数点第二位で四捨五入

鹿島工場

所在地： 茨城県神栖市砂山 26
従業員数： 76 人
敷地： 総面積 10.1 万㎡
主要製品： 【㈱トクヤマ鹿島工場】医薬原薬（胃・十二指腸潰瘍治療薬、糖尿病治療薬）、
光学材料（プラスチックレンズモノマー、調光物質、ハードコート液）、
電子材料用原料および金属洗浄剤
【㈱トクヤマデンタル鹿島工場】歯科材料（修復材、接着剤、床裏装材、印象材および埋没材）



鹿島工場長
北島 佳幸



鹿島工場では、『化学物質の取扱いに対する管理』を最重点課題とし、廃棄物のリサイクルを進めています。その結果、2015 年度の廃棄物有効利用率は 74% でした。

最終埋立量は 20 トン、ゼロエミッション率は 98% となりました。

今後も、マテリアルリサイクル、サーマルリサイクルの可能性を検討し、全廃棄物に対する有効利用率の向上に努めます。

パフォーマンスデータ

	単位	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
工水使用量	千トン	71	76	51	48	43
排水量	千トン	90	96	66	63	54
COD 排出量	トン	4	4	3	3	2
PRTR 法対象物質排出量	トン	2	1	2	2	2
廃棄物発生量	トン	909	930	919	1,020	735
廃棄物最終処分量	トン	7	7	7	11	20
エネルギー使用量 *	千 GJ	57	59	36	36	33
CO ₂ 排出量 (化石燃料起源) *	トン	2,324	2,399	2,476	2,465	2,246
苦情	件	0	0	0	0	0

* 省エネ法改正に伴い、発熱量などを 1990 年までさかのぼって再計算。

PRTR 法対象化学物質別 排出・移動量（2015 年度）

単位：トン

物質名	政令指定番号	排出量				移動量
		大気	水域	土壌	小計	
クロロホルム	127	0.4	0.0	0.0	0.4	7.3
トルエン	300	0.4	0.0	0.0	0.4	24.6
ジクロロメタン	186	0.4	0.0	0.0	0.4	0.0
アセトニトリル	13	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1
1,4- ジオキサン	150	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
N,N- ジメチルアセトアミド	213	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8
N,N- ジメチルホルムアミド	232	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
2- ビニルピリジン	338	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
合計		1.3	0.0	0.0	1.3	39.1

* 数値はトクヤマ鹿島工場とトクヤマデンタル鹿島工場との合計
順番：排出量の多い順、排出量 0 では政令指定番号順
水域：公共水域

移動量：下水道への移動＋中間処理
合計：小数点第三位までの合計値を小数点第二位で四捨五入

サン・トックス
株式会社

設立： 1992 年 2 月 14 日
株主： 株式会社トクヤマ（80%）、レンゴー株式会社（20%）
本社： 東京都港区赤坂 1-7-1 赤坂榎坂森ビル
事業内容： 二軸延伸ポリプロピレンフィルム、無延伸ポリオレフィンフィルムの製造および販売



工場長
島田 一紀



所在地：茨城県潮来市島須 3075-18
従業員数：188 人
敷地面積：89,800㎡

関東工場

関東工場は茨城県の潮来工業団地内に立地し、主に食品包装などに使用される二軸延伸ポリプロピレンフィルムと無延伸ポリオレフィンフィルムを年間約 2.9 万トン生産しています。当工場は、第一種エネルギー管理指定工場として、エネルギー原単位の削減に取り組んでいます。また、生産性の改善や廃棄物の削減にも取り組み、一定の成果を上げています。さらに、工業団地内や近隣の清掃活動も積極的に実施して、地域との共生も推進しています。今後も労働安全衛生管理（OSHMS）、環境管理（ISO14001）、品質管理（ISO9001）の 3 つのマネジメントシステムを継続、スパイラルアップに取り組み、社会から信頼され「地域と共生する工場」を目指します。

パフォーマンスデータ

	単位	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
廃棄物発生量	トン	57	26	15	20	15
廃棄物最終処分量	トン	43	7	4	10	5
エネルギー使用量	千 GJ	341	340	360	351	356
CO ₂ 排出量	千トン	19	19	20	20	21
SO _x 排出量	トン	0.4	0.3	0.2	0.3	0.3
NO _x 排出量	トン	0.7	0.6	0.7	0.6	0.7
ばいじん排出量	トン	0.04	0.03	0.06	0.05	0.04



工場長
上田 直紀



所在地：山口県周南市晴海町 7-7
従業員数：154 人
敷地面積：24,100㎡

徳山工場

徳山工場は（株）トクヤマ徳山製造所東工場内に立地し、地球環境にやさしい二軸延伸ポリプロピレンフィルム（主に食品包装用）を年間約 2.3 万トン生産しています。環境面では「製造原単位の低減とリサイクル率の向上」に積極的に取り組み、今後も廃棄物発生量の削減に努めていきます。安全面では 2013 年度に開発部門を含めたサン・トックス（株）徳山地区のすべての部署の労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS）が拡大認定され、「安全は厳しく、生産は楽しく、品質は妥協せず」をスローガンに、社会と顧客、従業員から信頼され続ける工場運営を目指します。

パフォーマンスデータ

	単位	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
廃棄物発生量	トン	70	67	66	76	74
廃棄物最終処分量	トン	1	2	2	1	1
エネルギー使用量	千 GJ	448	445	463	458	471
CO ₂ 排出量	千トン	26	26	27	27	27
PRTR 法対象物質排出量	トン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
苦情	件	0	0	0	0	0

サン・アロー化成株式会社

設立： 1999年2月1日
株主： 株式会社トクヤマ（100%）
本社： 山口県周南市晴海町1-2
事業内容： 塩化ビニルコンパウンドの製造および販売



工場長
安澤 保人



所在地：山口県周南市晴海町1-2
従業員数：24人
敷地面積：3,280㎡

徳山工場

徳山工場は（株）トクヤマ徳山製造所東工場内に立地し、インフラ整備には欠かせないパイプ・継手や、省エネ効果の高い樹脂窓枠などに使用される塩化ビニルコンパウンドの製造・販売を行っています。環境面ではISO14001を推進し、保安防災面については全員参加の5S、ヒヤリハット、トラブル・ゼロ活動を積極的に展開し、会社設立時から16年間の「無事故・無災害」を継続しています。2016年度も安全第一を事業活動の基本とし、内部統制をさらに徹底してRC活動に取り組んでいきます。

パフォーマンスデータ

	単位	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
電力使用量	千kWh	2,763	2,455	2,562	2,473	2,659
廃プラスチック発生量	トン	110	107	125	108	141
廃プラスチック有効利用量	トン	110	107	124	105	141
廃棄物外部最終処分量	トン	10	15	7	8	6
蒸気使用量	トン	240	240	240	240	240
工水使用量	千トン	65	65	65	65	65

徳山ポリプロ株式会社

設立： 2001年4月2日
株主： 株式会社トクヤマ（50%）、株式会社プライムポリマー（50%）
本社： 山口県周南市晴海町1-1
事業内容： ポリプロピレン樹脂・軟質ポリオレフィン樹脂の製造および販売



工場長
遠藤 裕昭



所在地：山口県周南市晴海町1-1
従業員数：62人
敷地面積：70,997㎡

徳山工場

徳山工場は（株）トクヤマ徳山製造所東工場内に立地し、徳山製造所と一体となったRC活動を推進しています。保安管理面では、「プロセス・設備・作業」におけるリスクアセスメントの実施、安全文化の柱であるHHK（ヒヤリハット・キガカリ）活動を推進し、（株）トクヤマポリプロ製造部時代から「無事故（46年間）・無災害（40年間）」を継続しています。2016年度は、2年ごとの定修年となります。「無事故・無災害の継続」、「環境負荷の低減」および「品質クレームゼロ」を目標に、RC活動を推進していきます。

パフォーマンスデータ

	単位	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
工水使用量	千トン	366	343	411	308	370
廃棄物発生量	トン	123	160	116	89	35
廃棄物最終処分量	トン	0	1.9*	15	2.4*	0
2002年度比エネルギー原単位指数	%	88	88	84	76	71

*定修年

トクヤマの環境データ

Input（千トン）	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	対前年度比（%）
廃棄物・副産物	1,680	1,780	1,945	1,790	1,780	-0.6
燃料	2,270	2,150	1,760	1,820	1,810	-0.5
原料	5,880	5,650	6,080	5,900	5,990	1.5
工業用水	43,900	41,300	42,200	41,700	42,100	1.0
Output（千トン）	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	対前年度比（%）
二酸化炭素	6,510	5,800	5,930	5,910	6,000	1.5
廃棄物（焼却・埋立）	21	20	21	22	22	0.0
環境負荷物質	11	10	10	10	10	0.0
工程排水	24,300	24,900	22,100	24,000	24,200	0.8

SOx、NOx、ばいじん排出量

単位：トン	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	対前年度比（%）
SOx	2,180	1,450	750	550	680	23.6
NOx	8,600	8,400	9,200	8,850	8,900	0.6
ばいじん	191	190	174	135	138	2.2

窒素・リンの排出量

単位：トン	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	対前年度比（%）
窒素排出量	108	94	70	89	92	3.4
リン排出量	2.8	2.7	2.4	2.6	2.2	-15.4

廃棄物の管理

単位：千トン	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	対前年度比（%）
内部リサイクル	331	337	350	312	346	10.9
外部リサイクル	27.3	25.0	24.5	21.9	21.4	-2.3
焼却処分	21	19.7	20.5	21.3	21.9	2.8
埋立処分	0.5	0.3	0.3	0.3	0.4	33.3

エネルギー消費原単位指数*の推移（徳山製造所）

単位%	基準年（2005年度）	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	目標値（2020年度）
原単位比	100.0	100.0	99.4	97.9	94.6	97.0

* 2014年から、2020年度までに2005年度比で3.0%改善するとの目標をあげて活動しています。

セメントでの廃棄物・副産物使用原単位

単位：kg/トン・セメント	基準年（1991年）	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
原単位	227	446	458	461	448	459

セメント生産でのマテリアルリサイクル・サーマルリサイクル量の推移

単位：千トン	基準年（1991年）	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
マテリアルリサイクル	1,550	1,610	1,730	1,879	1,702	1,711
サーマルリサイクル	4	70	54	66	86	74

エネルギー使用量推移

単位：千 GJ	基準年（1990 年）	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
単体	37,600	52,500	44,200	43,700	44,400	45,300
グループ会社	—	2,800	2,600	2,800	2,800	2,600

CO₂ 排出量推移

単位：千トン	基準年（1990 年）	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
燃料起源	3,290	4,730	4,020	4,020	4,040	4,120
原料起源	1,930	1,550	1,570	1,680	1,630	1,590
廃棄物起源	20	230	210	230	230	230
グループ会社		210	190	200	200	190

PRTR 法対象物質の排出量推移

単位：トン	基準年（1998 年）	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
単体	237	34	40	35	27	37
グループ会社		40	41	39	36	40

有害大気汚染物質の排出量推移

単位：トン	基準年（1995 年）	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
ジクロロメタン（塩化メチレン）	28	1	3	2	1.5	1.4
クロロホルム	7	1	3	2	2.1	1.1
1，2 - ジクロロエタン	47	8	10	10	4.9	10.6
クロロエチレン（塩化ビニル）	21	11	11	9	5	7.7

工場排水量・COD 排出量

	基準年（1990 年）	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
工場排水量（百万トン）	14.3	24.3	24.9	22.1	24.1	24.2
COD 排出量（トン）	180	123	123	134	112	126

産業廃棄物処理内訳

単位：千トン	2009 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
内部リサイクル	260	331	337	350	312	346
外部リサイクル	20.8	27.3	25	24.5	21.9	21.4
焼却処分	18.9	21	19.7	20.5	21.3	21.9
埋立処分	0.4	0.5	0.5	0.3	0.3	0.4
発生量	300	380	382	396	355	389

産業廃棄物の埋立処分量と有効利用率などの推移

	基準年（1990 年）	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
埋立量（千トン）	36,260	500	330	280	320	400
有効利用率（％）	77	94.4	94.7	94.7	93.9	94.3
ゼロエミッション率（％）	82	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9

■国内グループ会社

化学品・樹脂

トクヤマ・セントラルソーダ株式会社

（ソーダ灰・塩化カルシウムの仕入販売）
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-12-9
スズエ・アンド・スズエビル
TEL:03-5157-1130 / FAX:03-5157-1181

株式会社トクヤマシルテック

（結晶性層状珪酸ナトリウムの製造販売）
〒745-0024 山口県周南市晴海 7-38
TEL:0834-34-2937 / FAX:0834-33-3748

西日本レジコート株式会社

（金属製品の表面処理）
〒731-4231 広島市安芸区阿戸町宇香下田 783-2
TEL:082-856-0771 / FAX:082-856-0772

新第一塩ビ株式会社

（塩化ビニル樹脂の製造販売）
〒105-0003 東京都港区西新橋 1-10-2
住友生命西新橋ビル
TEL:03-3595-0721 / FAX:03-3595-1903

サン・アロー化成株式会社

（塩ビコンパウンドの製造販売）
〒745-0024 山口県周南市晴海町1 番2 号
TEL:0834-34-2672 / FAX:0834-33-3743

サン・トックス株式会社

（ポリオレフィンフィルムの製造販売）
〒107-0052 東京都港区赤坂1-7-1 赤坂榎坂森ビル
TEL:03-5797-7645 / FAX:03-5797-7636

徳山ポリプロ株式会社

（ポリプロピレンの製造）
〒745-8648 山口県周南市晴海町 1-1
TEL:0834-34-2707 / FAX:0834-33-3677

トミテック株式会社

（プラスチック製品の製造販売）
〒742-1513 山口県熊毛郡田布施町大字麻郷 3055-1
TEL:0820-55-5678 / FAX:0820-55-5300

山口リキッドハイドロジェン株式会社

（液化水素製造）
〒541-0053 大阪市中央区本町3-6-4
TEL:06-7637-3458 / FAX:06-7637-3307

ICT・装置・膜・洗浄

株式会社アストム

（脱塩・濃縮用イオン交換膜および電気透析装置の製造販売）
〒105-0003 東京都港区西新橋 2-6-2
友泉西新橋ビル
TEL:03-3597-5019 / FAX:03-3597-5024

TD パワーマテリアル株式会社

（窒化アルミニウム白板の製造販売）
〒746-0004 山口県周南市三笠町 29-17
TEL:0834-64-7211 / FAX:0834-64-7212

株式会社トクヤマMETEL

（産業用洗浄剤の製造・販売等）
〒210-0855 川崎市川崎区南渡田町1-1 京浜ビル8F
TEL:044-328-7747 / FAX:044-328-7757

フィガロ技研株式会社

（センサ素子・機器の製造販売）
〒562-8505 大阪府箕面市船場西 1-5-11
TEL:072-728-2591 / FAX:072-728-2566

セメント・建材

トクヤマ通商株式会社

（セメント・生コンクリート・各種土木建築資材の仕入販売）
〒105-0014 東京都港区芝2-28-8 芝2 丁目ビル
TEL:03-5418-1500 / FAX:03-5418-1506

関西トクヤマ販売株式会社

（セメント・生コンクリート・各種建設資材の販売）
〒530-0005 大阪市北区中之島 2-2-7
中之島セントラルタワー
TEL:06-6201-7290 / FAX:06-6201-7299

株式会社トクシン

（セメント・生コンクリート・各種建設資材の製造販売）
〒730-0017 広島市中区鉄砲町 8-18
広島日生みどりビル
TEL:082-221-9477 / FAX:082-223-2347

香川トクヤマ株式会社

（セメント・建材の販売、生コンクリートの製造販売）
〒761-8012 香川県高松市香西本町 1-45
TEL:087-882-0612 / FAX:087-882-7338

株式会社トクショウ

（セメント・生コンクリートの仕入販売）
〒810-0001 福岡市中央区天神 1-14-16 三栄ビル
TEL:092-732-6706 / FAX:092-739-5245

東京トクヤマコンクリート株式会社

（生コンクリート・インターロッキングブロックの製造販売）
〒105-0014 東京都港区芝2-28-8 芝2 丁目ビル
TEL:03-5443-7280 / FAX:03-5443-7281

川崎徳山生コンクリート株式会社

（生コンクリートの製造販売）
〒210-0867 川崎市川崎区扇町 13-7
TEL:044-322-7730 / FAX:044-329-1156

山陽徳山生コンクリート株式会社

（生コンクリートの製造販売）
〒710-0012 岡山県倉敷市鳥羽 636
TEL:086-464-0500 / FAX:086-463-3313

中国生コンクリート株式会社

（生コンクリートの製造販売）
〒734-0013 広島市南区出島 3-2-2
TEL:082-251-4431 / FAX:082-251-4434

広島トクヤマ生コン株式会社

（生コンクリートの製造販売）
〒731-4325 広島市安芸郡坂町鯛尾 1-5-3
TEL:082-885-5611 / FAX:082-885-5699

西部徳山生コンクリート株式会社

（生コンクリートの製造販売）
〒745-0053 山口県周南市御影町 1-1
TEL:0834-34-2372 / FAX:0834-27-0371

九州徳山生コンクリート株式会社

（生コンクリートの製造販売）
〒812-0055 福岡市東区東浜 2-82-2
TEL:092-651-8667 / FAX:092-631-4792

株式会社豊海

（生コンクリートの製造販売）
〒870-0018 大分県大分市豊海5-4-9
TEL:097-534-6081 / FAX:097-538-1528

株式会社野津原

（生コンクリートの製造販売）
〒870-0018 大分県大分市豊海5-4-9
TEL:097-534-6081 / FAX:097-538-1528

水島リバーメント株式会社

（高炉セメント、高炉スラグの製造販売）
〒712-8074 岡山県倉敷市水島川崎通 1
TEL:086-447-4607 / FAX:086-447-4699

株式会社エクセルシャノン

（樹脂サッシおよび関連製品、住宅用建築資材の製造販売）
〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町2-7-8
いちご日本橋イーストビル
※電話番号はトクヤマホームページよりご確認ください

東北シャノン株式会社

（樹脂サッシの製造）
〒025-0301 岩手県花巻市北湯口第一地割 46-1
TEL:0198-27-4300 / FAX:0198-27-4309

株式会社トクヤマエムテック

（建材製品の製造販売）
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-2-5
ERVIC 人形町ビル
TEL:03-5643-3601 / FAX:03-3249-3615

山口エコテック株式会社

（ごみ焼却灰の再資源化事業）
〒745-0024 山口県周南市晴海町 7-46
TEL:0834-34-2935 / FAX:0834-33-3746

株式会社トクヤマ・チヨダジブサム

（廃石こうボードのリサイクル事業）
〒510-8121 三重県三重郡川越町高松928
TEL:059-361-3073 / FAX:059-361-3064

株式会社FL トクヤマ

（漆喰関連製品とその加工品の企画・立案・販売事業）
〒105-0014 東京都港区芝2-28-8 芝2 丁目ビル
TEL:03-5418-1530 / FAX:03-5418-1532

ヘルスケア

株株式会社トクヤマデンタル

（歯科医療器材の製造・輸出入・販売）
〒110-0016 東京都台東区台東 1-38-9
イトーピア清洲橋通ビル
TEL:03-3835-2260 / FAX:03-3835-2265

株式会社エイアンドティー

（臨床試験検査薬・機器システムの開発・製造・販売）
〒221-0056 横浜市新神奈川区金港町 2-6
横浜プラザビル
TEL:045-440-5810 / FAX:045-440-5820

その他

株式会社トクヤマロジスティクス

（物流事業会社）
〒745-0047 山口県周南市入船町 7-18
TEL:0834-21-3327 / FAX:0834-21-3350

株式会社トクヤマ情報サービス

（情報システムのソリューション）
〒745-0056 山口県周南市新宿通 1-7
TEL:0834-33-3330 / FAX:0834-33-3339

周南システム産業株式会社

（土木・建築の設計・施工、工場構内作業請負他）
〒745-0862 山口県周南市江口 1-1-1
TEL:0834-34-2380 / FAX:0834-22-1908

株式会社周南スイミングクラブ

（スイミング、フィットネス等の「健康増進施設」の運営）
〒745-0862 山口県周南市江口 1-1-26
TEL:0834-31-8819 / FAX:0834-31-8891

周南バルクターミナル株式会社

（バルク品にかかわる倉庫業）
〒745-0024 山口県周南市晴海 8
TEL:0834-34-2031 / FAX:0834-33-3576

大分鉱業株式会社

（石灰石の採掘、販売）
〒879-2461 大分県津久見市大字上青江 2426-1
TEL:0972-82-3171 / FAX:0972-82-3174

第三者意見

トクヤマ 「CSR 報告書 2016」 を読んで

梨岡 英理子

株式会社環境管理会計研究所
代表取締役／公認会計士・税理士
同志社大学商学部嘱託講師
「環境会計」「環境監査」担当



➤ あらたなる創業の意味すること

2016 年 5 月に「あらたなる創業」を掲げられ、「トクヤマのビジョン」を打ち出されました。これはトクヤマが社会に提供する価値創造を明示したものであり、これからの企業のあり方として簡単でわかりやすいビジョンであると思います。トップメッセージではこれをグループすべての従業員に語りかけるように説明されており、トップがこの変革にかけける強い思いを感じます。トクヤマの経営の根底には RC（レスポンシブル・ケア）を含む CSR があり、価値創造の経営を積極的に実践していくことで財務的な基盤を強化し、持続可能な社会に貢献する企業となることが書かれています。これは統合報告の理念にも近く、今後は CSR 報告書から一歩進んだ開示内容となることを期待します。ビジョ

ンのもと理念や方針などを整理し、そこから導きだされる CSR 目標や実績について、数値情報を含む一覧でみることであれば、トクヤマの CSR 経営がより理解しやすくなると思います。

➤ 外へ向けての価値創造

特集記事に取り上げられている 3 つの事業は、トクヤマの価値創造をモデル化したケースであり、企業の存在意義として社会課題の解決を強く志向していることを感じます。他社との協働が革新をもたらすケースもあり、外に向かって開かれた視野を持っている企業であることがわかります。一方で 100 年近い歴史の積み重ねから溜まる澁も意識されており、良いところは残し、時代に適さなくなった部分を改革しようとする姿勢を感じました。女性の活用を強く意識していることはその証左の一つではないかと思います。これは企業内部にかかわるような事項ですが、外に向けて発信していくことが重要だと思います。

➤ 情報開示とコミュニケーション

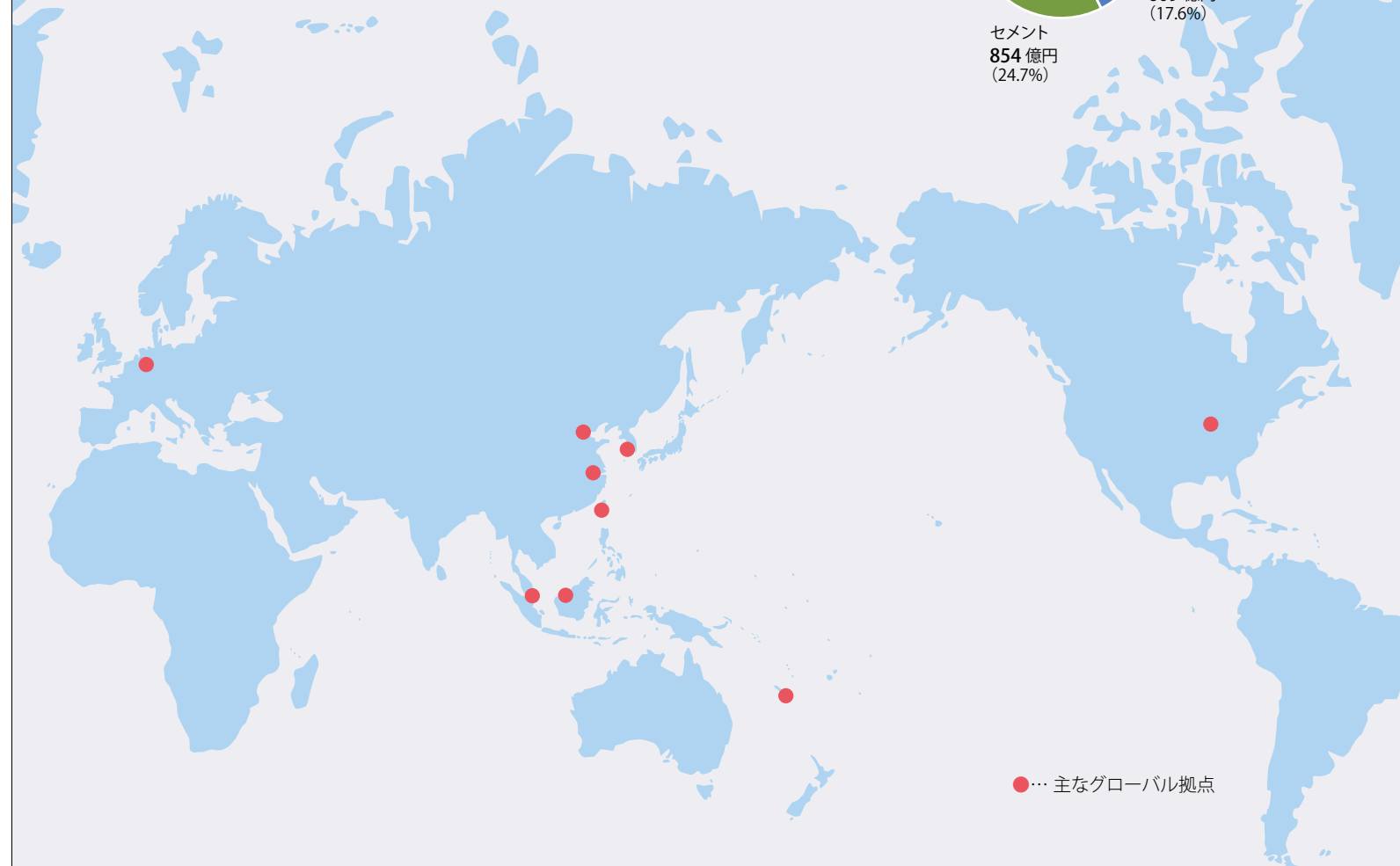
社会に役立つ新しい価値を創造し提供し続けていくには、中長期的な展望と多様なステークホルダーとの交流が重要です。不確実性の高い時代には、特に顧客などのコミュニケーションが求められます。さまざまなステークホルダーからもたらされる膨大な情報の中から、トクヤマのビジョンを鑑み、優先順位を決めることが求められます。次のステップとして、トクヤマのビジョンと社会のニーズを照らし、何が重要なのかをステークホルダーと一緒に決め、社会に開示していくことを検討されてはいかがでしょうか。

■ 徳山製造所全景



■ グローバル拠点

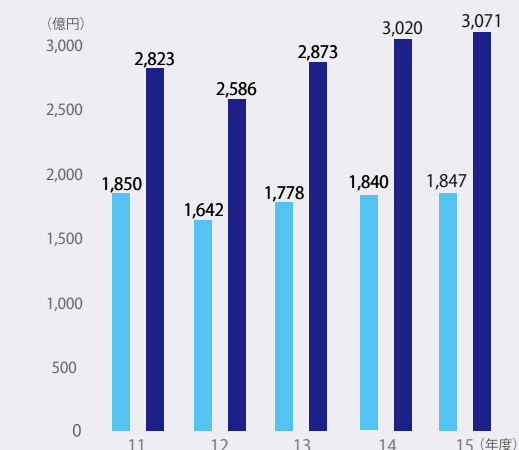
アジアを中心に、世界 8 つの国と地域に製造拠点・販売拠点を置き、グローバルに展開をしています。



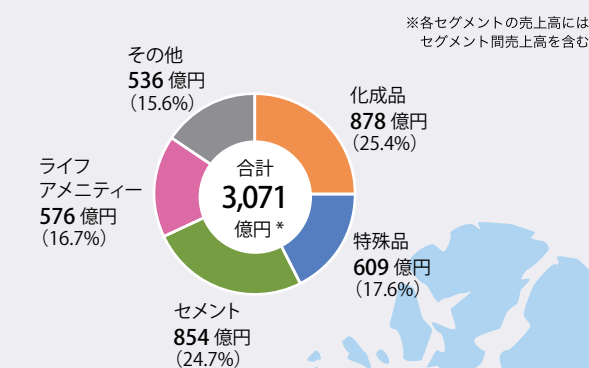
●… 主なグローバル拠点

■ 業績ハイライト

売上高



事業分野別売上構成（2015 年度）



第三者意見を受けて

安中 利彦

常務執行役員
CSR 推進室長



当社は CSR 報告書を、ステークホルダーの皆さまに会社の目指している方向・それを支える基盤について正確にご理解いただきたいと考え、編纂しております。

本年は 5 月に発表した、顧客満足をベースとしたトクヤマの

ビジョンをはじめとする新しい中期経営計画の考え方を掲載いたしました。顧客満足の追求は CSR や RC につながることで、会社として安全や環境保全など CSR 経営を引き続き推し進める方向性をご説明しております。

また特集では、バイオマス燃料等による環境負荷低減の取り組み、産業用洗浄剤分野と臨床検査の分野での顧客ニーズ対応の事例を紹介いたしました。

触れていただいた事例のように、会社の存在意義としての社会課題の解決を創業以来行ってきた実績を踏まえながら、時代に合わなくなった部分を改革し、外に開かれた会社になろうとする姿勢をご理解いただけたと思います。

ステークホルダーとのコミュニケーションとそこから得られる情報と当社ビジョンとのすり合わせによる CSR 目標の設定や実績についての記述につきご指摘いただきました。今後、目標設定のベースにある考え方や運用の実態を良く示す指標の開示を検討してまいりたいと思います。